

委員長及副委員長選舉

○大正十一年二月十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如ク

委員長	伯爵	副委員長
磯部	道正	四郎

會議

第一回 大正十一年二月十四日

出席委員

令案三副委員長(承諾磯部)四副委員長(承諾子爵)秋月種英
 ○大正十年二月八日勅令淺田德久則(承諾)同(承諾)外務書記官
 同(承諾) 黑岡帶刀 同 男爵 毛利五郎
 (出席政府委員) 閣委員會(承諾)外務省條約局長
 大正十年勅令第三百七十六號(承諾)外務書記官
 大正十年勅令第三百七十五號(承諾)外務書記官

司法省民事局長

池田寅二郎

開會 午前十時二十五分

○副委員長磯部四郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

勅令第三百七十五號

大正九年勅令第八十七號ハ同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約第二百三十九條ノ規定ニ依リ帝國ト洪牙利國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第三百七十六號

大正九年勅令第七十一號ハ洪牙利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財産ヲ以テ同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約第二百三十二條ニ規定スル支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○副委員長磯部四郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十二分

第二回 大正十一年二月十五日

出席委員

副委員長

磯部 四郎

委員 子爵

秋月 種英

同

淺田 德則

同

河村 善益

同

黒岡 帶刀

男爵

毛利 五郎

出席政府委員

外務省條約局長

山川 端夫

外務書記官

河合 博之

司法省民事局長

池田 寅二郎

出席説明員

司法省參事官

大森 洪太

開會 午前十時十二分

○副委員長磯部四郎 開會ヲ宣告ス

○副委員長磯部四郎 散會ヲ命ス

散會 午前十時五十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正十年勅令第三百七十五號

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年二月十五日

右特別委員副委員長

副委員長

磯部 四郎

委員

貴族院議長公爵徳川家達殿

大正十年勅令第三百七十六號

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年二月十五日

大正十一年二月二十五日 右特別委員副委員長

大正十一年二月二十五日 磯部 四郎

大正十一年二月二十五日 委員長 伯爵 副島 道正 印

副委員長 磯部 四郎 印

大正十一年二月二十五日 田 德 則

大正十一年二月二十五日 同 同

大正十一年二月二十五日 同 同

(附屬) 同日委員ニ對出シタル委員長ノ辭書ヲ職官局長

議會 子爵十和正正位

○區委員長齋藤四郎 議會ヲ命ス

○區委員長齋藤四郎 議會ヲ宣言ス

議會 子爵十和正正位

司法省參事官

大森 洪太

家畜傳染病豫防法案特別委員會

委員選舉手續規則二十六條

○大正十一年二月十日議長ノ指名ヲ以テ家畜傳染病豫防法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出雲縣議員

子爵 片 桐 貞 央

出雲縣議員

子爵 米 津 政 賢

出雲縣議員

男爵 平 野 長 祥

出雲縣議員

男爵 真 田 幸 世

出雲縣議員

男爵 永 山 武 敏

出雲縣議員

男爵 岩 倉 道 俱

出雲縣議員

三 宅 秀

出雲縣議員

川 上 親 晴

出雲縣議員

三 田 義 正

委員長及副委員長選舉

○大正十一年二月十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正十一年二月十三日委員會議事錄

委員長 子爵 片桐 貞央

副委員長 三宅 秀

會議

第一回 大正十一年二月十五日

出席委員

副委員長 三宅 秀 委員 子爵 米津 政賢

同 男爵 平野 長祥 同 男爵 永山 武敏

同 男爵 岩倉 道俱 同 男爵 三田 義正

出席政府委員

農商務次官 中 隆三

出席說明員

○大正十一年二月十日開會、議決、以て家畜農商務技師、委員、山脇、吉

開會午後一時二十六分

○副委員長三宅秀開會ヲ宣告ス

(參照)

家畜傳染病豫防法案

家畜傳染病豫防法

第一條 本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、緬羊、山羊、豚、犬、鶏及鶩ヲ謂ヒ傳染病ト稱ス

ルハ牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛ノ傳染性肋膜肺炎、流行性鷓口瘡、狂犬病、

羊痘、豚虎列刺、豚疫、豚丹毒、牛ノ傳染性流產、馬緬羊山羊ノ疥癬、加奈陀馬痘及家禽虎

列刺ヲ謂フ

畜類傳染病豫防上必要アルトキハ勅令ヲ以テ前項ノ家畜又ハ傳染病以外ノ畜類又ハ傳染性病

ニ付本法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條 家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アルトキ又ハ牛疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アル

トキハ所有者、保管者又ハ診斷若ハ檢案シタル獸醫ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防

疫委員ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ家畜カ船車ニ搭載スルモノナルトキハ船長、鐵道係員又ハ軌

道係員ハ最初ニ寄港又ハ停留シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ届出ツヘシ

第三條 前條ノ家畜ニ付テハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ

軌道係員ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ家畜ノ隔離其ノ他傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

前項ノ家畜ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ殺スコトヲ得ス但シ鶏及鶩ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 家畜カ牛疫ニ罹リ若ハ之ニ感染シタル虞アルトキ又ハ狂犬病ニ罹リタルトキハ所有者又ハ保管者ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ殺スヘシ但シ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行フモノハ此ノ限ニ在ラス
狂犬病ニ罹リタル犬ニ付所有者又ハ保管者緊急ノ必要アリト認ムルトキハ前項ノ指揮ヲ待タスシテ之ヲ殺スコトヲ得

第五條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛ノ傳染性肋膜炎、流行性鷄口瘡、羊痘、豚虎列刺、豚疫、豚丹毒、綿羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リタル家畜ニ付所有者又ハ保管者ニ對シ之ヲ殺スコトヲ命スルコトヲ得牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行ヒタルモノニ付亦同シ
地方長官ハ前項ノ家畜ニ付所有者又ハ保管者知レサル等ノ爲前項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲スコ

ト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ之ヲ殺サシムルコトヲ得

第六條 地方長官傳染病豫防上病性鑑定ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ノ屍體ヲ剖檢セシメ又ハ剖檢ノ爲家畜ヲ殺サシムルコトヲ得

第七條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防疫ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシムルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員前項ノ場合ニ於テ助力ヲ求ムルトキハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒却又ハ埋却スヘシ但シ鶏及鶩ノ屍體ニ付テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却又ハ埋却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ假性皮疽又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體及牛ノ傳染性流產又ハ馬綿羊山羊ノ疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ斃屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ並牛ノ傳染性流產又ハ馬綿羊山羊ノ疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ殺屍體ニ之ヲ適用セス病性鑑定又ハ學術研究ノ爲地方長官ノ許可ヲ受ケタル

家畜ノ屍體ニ付亦同シ

第九條 傳染病ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ但シ家禽虎列刺ノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スルコトヲ得

第十條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ若ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體又ハ傳染病ノ病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アル物品ヲ埋却シタル土地ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ畜舎、船車其ノ他ノ場所ハ其ノ所有者、管理人、船長、鐵道係員又ハ軌道委員ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ消毒スヘシ但シ家禽虎列刺ノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ消毒スルコトヲ得

第十二條 傳染病ノ病毒ニ觸接シ又ハ觸接シタル疑アル者ハ直ニ消毒ヲ爲スヘシ

警察官吏又ハ家畜防疫委員必要アリト認ムルトキハ前項ノ消毒ニ付指揮ヲ爲スコトヲ得

第十三條 牛、馬、緬羊、山羊又ハ豚カ疾病ノ爲斃死シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ直ニ家

畜所在地ノ警官察吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨届出ツヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 第三條、第四條、第八條、第九條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル義務者又ハ第五條ニ規定スル處分ニ依ル義務者カ其ノ義務ニ屬スル事項ヲ行ハス又ハ行フコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員之ヲ行フコトヲ得

前項又ハ第五條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但シ北海道地方費又ハ府縣ハ第二十三條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ノ定ムル所ニ依リ簡入ノ負擔ニ屬スル費用ヲ其ノ簡人ヨリ徵收スルコトヲ得

第十五條 警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舎、船車其ノ他家畜ノ所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十六條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ區域ヲ限リ一定種類ノ家畜ノ出入若ハ往來又ハ其ノ家畜ノ屍體若ハ傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ運搬ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上緊急ノ必要アリト認ムルトキハ傳染病ニ罹リ若ハ罹
リタル疑アリ又ハ生疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ場所及其ノ隣接區域ニ對シ一定ノ期
間交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十七條 地方長官狂犬病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ道路、公園、社寺、
境内、墓地其ノ他ノ場所ニ徘徊スル犬ヲ抑留セシムルコトヲ得
警察官吏前項ノ規定ニ依リ犬ヲ抑留シタルトキハ其ノ所有者又ハ保管者ニ其ノ旨通知シ之ヲ
受領セシムヘシ所有者及保管者知レサルトキハ抑留ノ旨ヲ公示スヘシ

前項ノ規定ニ依ル公示後命令ノ定ムル期間内ニ犬ノ返還ノ請求ナキトキハ地方長官ハ其ノ犬
ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ屠場若ハ化製場ノ事業ノ停止又ハ家
畜市場、家畜共進會若ハ競馬會ノ開設其ノ他家畜ヲ集合セシムル施設ノ停止ヲ命スルコトヲ
得

第十九條 農商務大臣傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類其ノ
他傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ輸入又ハ移入ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十條 家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類ハ傳染病豫防ノ爲施行スル檢疫ヲ受クルニ非サレハ之
ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル物ノ外傳染病ノ病毒傳播ノ虞
アル物ニ付檢疫ヲ行フコトヲ得

第二十一條 檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ航海日誌其ノ他ノ書
類ヲ檢閱スルコトヲ得

第二十二條 第二條乃至第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條ノ規定ニ於テ警察官吏又ハ
家畜防疫委員トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ檢疫官吏トス

第二十三條 傳染病豫防ニ關スル費用ハ國、北海道地方費、府縣、市町村又ハ箇人ノ負擔トス
其ノ負擔區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 地方長官ハ左ノ區分ニ從ヒ家畜又ハ物品ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付ス但シ勅令
ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜但シ犬及第七條ノ
規定ニ依リ豫防疫ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リタル家畜ヲ除ク 評價額ノ三分ノ一

二 第六條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜 評價額ノ五分ノ三
 三 牛疫ニ感染シタル處アリ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜、第七條ノ規定ニ依リ豫防液ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜及第七條ノ規定ニ依リ免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ヒタル爲斃死シタル家畜 評價額ノ五分ノ四
 四 第九條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ燒却又ハ埋却シタル物品及第十四條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員カ燒却又ハ埋却シタル物品
 前項ノ規定ハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於ケル家畜及物品ニ付テハ之ヲ適用セス
 第一項ノ評價額ハ地方長官三人以上ノ評價人ヲ選定シテ發病前又ハ病毒汚染前ノ價格ニ依リ之ヲ定メシム地方長官其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシムルコトヲ得
 第二十五條 前條ノ手當金ハ所有者又ハ保管者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ家畜

又ハ物品ニ付之ヲ交付セス

一 第二條、第三條第一項、第四條第一項若ハ第九條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ

三 第六條、第七條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ
 第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル獸醫
 二 第三條、第四條第一項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者

三 第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條、第十八條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者

四 第五條第二項、第六條、第七條第一項、第十四條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタル者
 第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル所有者、保管者、船長、鐵道係員又ハ軌道係員
 二 第八條乃至第十一條ノ規定ニ違反シタル者
 三 第十二條第二項ノ規定ニ依ル指揮ニ従ハサル者
 四 正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢
 閱ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者
 第二十八條 第十三條ノ届出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス
 第二十九條 航海中ノ船舶ニ在リテハ船長ハ第三條、第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラ
 ス命令ノ定ムル所ニ依リ傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ
 第三十條 第二十條ノ規定ハ宮内省又ハ國ノ管理ニ屬スル家畜其ノ他ノ物ニ之ヲ準用ス
 前項ノ規定ハ軍用ノ家畜ニシテ軍衛ニ於テ檢疫ヲ行フモノニ之ヲ適用セス
 第三十一條 本法中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ
 其ノ者ニ之ヲ適用ス
 第三十二條 本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス
 本法中市町村トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

獸疫豫防法及大正九年法律第三十號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ獸疫豫防法第四條、第四條ノ二、第五條又ハ第八條第一項ノ場合ニ該當シタルモ

テノ對スル手當金ノ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○副委員長三宅秀三 散會ヲ命ス

○散會 午後二時二十九分

○第二回 大正十一年二月十七日

出席委員

委員長 子爵

片桐

貞

中央商務副委員長

三宅

秀

出席委員 子爵

米津

政賢

同

男爵

平

野

長

大同 男爵

田

幸

世

男爵

永

山

武

出席委員

川

上

親

晴

同

三

田

義

出席政府委員

出席說明員

開會 午後一時十五分

○副委員長三宅秀 開會ヲ宣告ス

○副委員長三宅秀 散會ヲ命ス

○(附記) 委員長故障アリシ爲副委員長代理ス

散會 午後三時五十二分

第三回 大正十一年二月二十五日

出席委員

委員長 子爵 片桐 二十貞 中央 副委員長

委員 子爵 米津 賢 同 男爵 平野 長 祥

同 男爵 眞田 幸世 同 男爵 永山 武 敏

農商務次官 田中 隆三

農商務技師 月田 藤三郎

三宅 秀
平野 長 祥
永山 武 敏

出席政府委員 男爵 岩倉 道 俱 同

三 田 義 正

內務省衛生局長 潮 惠之輔

農商務次官 田 中 隆三

農商務書記官 石 黒 忠 篤

開會 午後一時十九分

○委員長子爵片桐貞央 開會ヲ宣告ス

○委員長子爵片桐貞央 散會ヲ命ス

散會 午後一時四十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

家畜傳染病豫防法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年二月二十五日

右特別委員長

大五十貴族院議長公爵德川家達殿

家畜傳染病豫防法案

副委員長

三宅

秀印

委員

委員

委員

開會

大正十一年二月二十五日

出席委員

委員長

出席委員

同

片桐 貞央

委員 片桐 貞央 印

委員 三宅 秀印

委員 百原 忠誠

委員 田中 劉三

委員 齋藤 忠誠

委員 齋藤 忠誠

委員 齋藤 忠誠

委員 齋藤 忠誠

鐵道敷設法案特別委員會

委員選舉

○大正十一年二月十四日議長ノ指名ヲ以テ鐵道敷設法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

會籍

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

林 博太郎

酒井 內忠亮

大河內 正敏

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

野村 益三

○大正十一年三月十一日男爵黑田長和委員ヲ辭任ス同日議長ハ其ノ補闕トシテ男爵岩倉道俱ヲ本委員ニ選定ス

委員長及副委員長選舉

○大正十一年二月十六日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	林 博太郎
副委員長	子爵	大河内正敏

會議

○第二十回 大正十一年二月十八日

出席委員

鐵道敷設委員長	伯爵	林 博太郎	副委員長	子爵	大河内正敏
---------	----	-------	------	----	-------

第四委員	子爵	關 酒 井 博 忠	亮	子爵	野 村 益 三
明 義 同	子爵	廣 北 城 同	男爵	七 山 根 六 武 亮	
藤 任 同	男爵	和 田 彦 次 郎	男爵	古 市 公 威	
津 武 同	男爵	田 嘉 吉 同	同	中 村 是 公	
藤 江 同	男爵	斯 波 忠 三 郎	同	黑 田 長 和	
貴 同	男爵	藤 堂 高 成	同	山 之 内 一 次	
出席國務大臣		鐵 道 大 臣	元 田 肇		
出席政府委員		鐵 道 次 官	石 丸 重 美		
鐵道省監督局長		井 出 繁 三 郎			
鐵道省運輸局長		中 川 正 左			
鐵道省建設局長		大 村 銅 太 郎			
鐵道省工務局長		岡 野 昇			

開會 午前十一時十八分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

(参照)

鐵道敷設法案

鐵道敷設法

第一條 政府ハ帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲別表ニ掲クル豫定鐵道線路ヲ調査敷設スル經

費ノ豫算ヲ定メ漸次繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第二條 豫定鐵道線路ニ該當スルモノト雖一地方ノ交通ヲ目的トスルモノニ在リテハ政府ハ地

方鐵道トシテ其ノ敷設ヲ免許スルコトヲ得

第三條 豫定鐵道線路ヲ變更シ又ハ豫定鐵道線路中新ニ工事ヲ著手スルモノヲ定ム處トモハ鐵

道會議ノ諮詢ヲ經ヘシ

第四條 鐵道會議ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道省 經理局長 別府 丑太郎

鐵道省 參事官 木下 謙次郎

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

鐵道省 技師長 中 川 五 夫

附則 明治二十五年法律第四號鐵道敷設法、北海道鐵道敷設法、明治二十七年法律第六號乃至第十號、

同年法律第十二號乃至第十五號、明治二十九年法律第七十二號乃至第七十七號、明治三十年法

律第十一號、同年法律第三十二號、同年法律第三十三號及同年法律第三十五號ハ之ヲ廢止ス

(別表) 本州ノ部

一 青森縣田名部ヨリ大畑ヲ經テ大間ニ至ル鐵道

二 青森縣青森ヨリ三厩、小泊ヲ經テ五所川原ニ至ル鐵道

三 青森縣弘前ヨリ田代ニ至ル鐵道

四 青森縣三戸ヨリ七戸ヲ經テ千曳ニ至ル鐵道

五 青森縣三戸ヨリ秋田縣毛馬内ヲ經テ花輪ニ至ル鐵道

六 岩手縣久慈ヨリ小本ヲ經テ宮古ニ至ル鐵道

七 岩手縣山田ヨリ釜石ヲ經テ大船渡ニ至ル鐵道

八 岩手縣小鳥谷ヨリ萬卷ヲ經テ斐野附近ニ至ル鐵道及落合附近ヨリ分岐シテ茂市ニ至ル鐵

- 八 道 小名谷ヨリ宮城縣松島ヨリ石巻ヲ經テ女川ニ至ル鐵道
- 九 岩手縣川井ヨリ遠野ヲ經テ高田ニ至ル鐵道
- 十 岩手縣一戸ヨリ荒屋ニ至ル鐵道
- 十一 岩手縣雫石ヨリ川尻ニ至ル鐵道
- 十二 岩手縣一ノ關ヨリ槻木附近ニ至ル鐵道
- 十三 秋田縣鷹ノ巣ヨリ阿仁合ヲ經テ角館ニ至ル鐵道
- 十四 秋田縣生保内ヨリ鳩ノ湯附近ニ至ル鐵道
- 十五 秋田縣本莊ヨリ矢島ヲ經テ院内ニ至ル鐵道
- 十六 秋田縣十文字ヨリ檜山臺附近ニ至ル鐵道
- 十七 宮城縣氣仙沼ヨリ津谷、志津川ヲ經テ前谷地ニ至ル鐵道及津谷ヨリ分岐シ佐沼ヲ經テ田尻ニ至ル鐵道
- 十八 宮城縣松島ヨリ石巻ヲ經テ女川ニ至ル鐵道
- 十九 宮城縣仙臺ヨリ古川ニ至ル鐵道
- 二十 宮城縣仙臺ヨリ山形縣山寺ヲ經テ山形ニ至ル鐵道及宮城縣川崎附近ヨリ分岐シテ山形

- 四十一 宮城縣長町ヨリ青根附近ニ至ル鐵道
- 四十二 宮城縣白石ヨリ山形縣上ノ山ニ至ル鐵道
- 四十三 縣神町ニ至ル鐵道
- 二十三 山形縣鶴岡ヨリ大鳥ニ至ル鐵道
- 二十四 山形縣楯岡ヨリ寒河江ニ至ル鐵道
- 二十五 山形縣左澤ヨリ荒砥ニ至ル鐵道
- 二十六 山形縣米澤ヨリ福島縣喜多方ニ至ル鐵道
- 二十七 福島縣福島ヨリ宮城縣丸森ヲ經テ福島縣中村ニ至ル鐵道及丸森ヨリ分岐シテ白石ニ至ル鐵道
- 二十八 福島縣川俣ヨリ浪江ニ至ル鐵道
- 二十九 福島縣柳津ヨリ只見ヲ經テ新潟縣小出ニ至ル鐵道及只見ヨリ分岐シテ古町ニ至ル鐵道
- 三十 福島縣須賀川ヨリ長沼ニ至ル鐵道
- 三十一 福島縣平ヨリ小名濱ニ至ル鐵道

- 三十二 福島縣石川ヨリ植田ニ至ル鐵道
- 三十三 栃木縣今市ヨリ高德ヲ經テ福島縣田島ニ至ル鐵道及高德ヨリ分岐シテ矢板ニ至ル鐵道
- 三十四 栃木縣日光ヨリ足尾ニ至ル鐵道
- 三十五 栃木縣鹿沼ヨリ栃木ヲ經テ茨城縣古河ニ至ル鐵道
- 三十六 栃木郡茂木ヨリ烏山ヲ經テ茨城縣大子ニ至ル鐵道及栃木縣大桶附近ヨリ分岐シテ黒磯ニ至ル鐵道
- 三十七 栃木縣市塙ヨリ寶積寺ニ至ル鐵道
- 三十八 茨城縣水戸ヨリ阿野澤ヲ經テ東野附近ニ至ル鐵道及阿野澤ヨリ分岐シテ栃木縣茂木ニ至ル鐵道
- 三十九 茨城縣水戸ヨリ鉾田ヲ經テ鹿島ニ至ル鐵道
- 四十 茨城縣常陸大宮ヨリ太田ヲ經テ大甕ニ至ル鐵道
- 四十一 茨城縣勝田ヨリ上菅谷ニ至ル鐵道
- 四十二 茨城縣高濱ヨリ玉造ヲ經テ延方ニ至ル鐵道及玉造ヨリ分岐シテ鉾田ニ至ル鐵道

- 四十三 茨城縣土浦ヨリ水海道、境、埼玉縣久喜、鴻巣、坂戸ヲ經テ飯能ニ至ル鐵道及水海道ヨリ分岐シテ佐貫ニ至ル鐵道並境ヨリ分岐シテ古河ニ至ル鐵道
- 四十四 茨城縣土浦ヨリ江戸崎ニ至ル鐵道
- 四十五 茨城縣古河ヨリ栃木縣佐野ニ至ル鐵道
- 四十六 千葉縣佐原ヨリ小見川ヲ經テ松岸ニ至ル鐵道及小見川ヨリ分岐シテ八日市場ニ至ル鐵道
- 四十七 千葉縣八幡宿ヨリ大多喜ヲ經テ小湊ニ至ル鐵道
- 四十八 千葉縣木更津ヨリ久留里、大多喜ヲ經テ大原ニ至ル鐵道
- 四十九 千葉縣上總湊ヨリ鴨川ニ至ル鐵道
- 五十 千葉縣船橋ヨリ佐倉ニ至ル鐵道
- 五十一 東京府八王子ヨリ埼玉縣飯能ヲ經テ群馬縣高崎ニ至ル鐵道
- 五十二 東京府大崎ヨリ神奈川縣長津田ヲ經テ松田ニ至ル鐵道
- 五十三 神奈川縣橫須賀ヨリ浦賀ニ至ル鐵道
- 五十四 群馬縣澁川ヨリ中之條ヲ經テ長野原ニ至ル鐵道

- 五十五 新潟縣來迎寺ヨリ小千谷ヲ經テ岩澤ニ至ル鐵道
- 五十六 佐渡國夷ヨリ河原田ヲ經テ相川ニ至ル鐵道
- 五十七 長野縣豐野ヨリ飯山ヲ經テ新潟縣十日町ニ至ル鐵道及飯山ヨリ分岐シテ屋代ニ至ル鐵道
- 五十八 長野縣小海附近ヨリ山梨縣小淵澤ニ至ル鐵道
- 五十九 長野縣松本ヨリ岐阜縣高山ニ至ル鐵道
- 六十 長野縣辰野ヨリ飯田ヲ經テ静岡縣濱松ニ至ル鐵道及飯田ヨリ分岐シテ三留野ニ至ル鐵道
- 六十一 静岡縣熱海ヨリ下田、松崎ヲ經テ大仁ニ至ル鐵道
- 六十二 静岡縣御殿場ヨリ山梨縣吉田ヲ經テ静岡縣大宮ニ至ル鐵道及吉田ヨリ分岐シテ大月ニ至ル鐵道
- 六十三 静岡縣掛川ヨリ二俣、愛知縣大野、静岡縣浦川、愛知縣武節ヲ經テ岐阜縣大井ニ至ル鐵道及大野附近ヨリ分岐シテ長篠ニ至ル鐵道並浦川附近ヨリ分岐シテ静岡縣佐久間附近ニ至ル鐵道

- 六十四 富山縣猪谷ヨリ岐阜縣船津ニ至ル鐵道
- 六十五 富山縣八尾ヨリ福光ヲ經テ石川縣金澤附近ニ至ル鐵道
- 六十六 富山縣氷見ヨリ石川縣羽咋ニ至ル鐵道
- 六十七 石川縣羽咋ヨリ高濱ヲ經テ三井附近ニ至ル鐵道
- 六十八 石川縣穴水ヨリ宇田津ヲ經テ飯田ニ至ル鐵道
- 六十九 愛知縣千種ヨリ舉母ヲ經テ武節ニ至ル鐵道
- 七十 愛知縣豐橋ヨリ伊良湖岬ニ至ル鐵道
- 七十一 愛知縣武豐ヨリ師崎ニ至ル鐵道
- 七十二 愛知縣名古屋ヨリ岐阜縣太田ニ至ル鐵道
- 七十三 岐阜縣中津川ヨリ下呂附近ニ至ル鐵道
- 七十四 岐阜縣大垣ヨリ福井縣大野ヲ經テ石川縣金澤ニ至ル鐵道
- 七十五 三重縣四日市ヨリ岐阜縣關ヶ原ヲ經テ滋賀縣木ノ本ニ至ル鐵道
- 七十六 滋賀縣貴生川ヨリ京都府加茂ニ至ル鐵道
- 七十七 滋賀縣濱大津ヨリ高城ヲ經テ福井縣三宅ニ至ル鐵道及高城ヨリ分岐シテ京都府二條

- ニ至ル鐵道
- 七十八 京都府園部ヨリ兵庫縣篠山附近ニ至ル鐵道
- 七十九 京都府殿田附近ヨリ福井縣小濱ニ至ル鐵道
- 八十 京都府山田ヨリ兵庫縣出石ヲ經テ豊岡ニ至ル鐵道
- 八十一 奈良縣櫻井ヨリ榛原、三重縣名張ヲ經テ松阪ニ至ル鐵道及名張ヨリ分岐シテ伊賀上野附近ニ至ル鐵道並榛原ヨリ分岐シ松山ヲ經テ吉野ニ至ル鐵道
- 八十二 奈良縣五條ヨリ和歌山縣新宮ニ至ル鐵道
- 八十三 兵庫縣谷川ヨリ西脇、北條ヲ經テ姫路附近ニ至ル鐵道
- 八十四 兵庫縣姫路ヨリ岡山縣江見ヲ經テ津山ニ至ル鐵道
- 八十五 兵庫縣上郡ヨリ佐用ヲ經テ鳥取縣智頭ニ至ル鐵道
- 八十六 兵庫縣有年ヨリ岡山縣伊部ヲ經テ西大寺附近ニ至ル鐵道
- 八十七 淡路國岩屋ヨリ洲本ヲ經テ福良ニ至ル鐵道
- 八十八 鳥取縣郡家ヨリ若櫻ヲ經テ兵庫縣八鹿附近ニ至ル鐵道
- 八十九 岡山縣勝山ヨリ鳥取縣倉吉ニ至ル鐵道

- 九十二 岡山縣倉敷ヨリ茶屋町ニ至ル鐵道
- 九十一 廣島縣福山ヨリ府中、三次、島根縣來島ヲ經テ出雲今市ニ至ル鐵道及來島附近ヨリ分岐シテ木次ニ至ル鐵道
- 九十二 廣島縣吉田口附近ヨリ大朝附近ニ至ル鐵道
- 九十三 廣島縣三原ヨリ竹原ヲ經テ吳ニ至ル鐵道
- 九十四 廣島縣廣島附近ヨリ加計ヲ經テ島根縣濱田附近ニ至ル鐵道
- 九十五 島根縣瀧原附近ヨリ大森ヲ經テ石見大田ニ至ル鐵道
- 九十六 山口縣岩國ヨリ島根縣日原ニ至ル鐵道
- 九十七 山口縣岩國ヨリ玖珂ヲ經テ徳山ニ至ル鐵道
- 九十八 山口縣徳佐ヨリ大井ニ至ル鐵道
- 九十九 山口縣小郡ヨリ大田ヲ經テ萩ニ至ル鐵道及大田附近ヨリ分岐シテ於福ニ至ル鐵道
- 四國ノ部
- 百 香川縣高松ヨリ琴平ニ至ル鐵道
- 百一 愛媛縣川之江ヨリ徳島縣阿波池田附近ニ至ル鐵道

- 百二 愛媛縣松山附近ヨリ高知縣越知ヲ經テ佐川ニ至ル鐵道
- 百三 愛媛縣八幡濱ヨリ卯ノ町、宮野下、宇和島ヲ經テ高知縣中村ニ至ル鐵道及宮野下ヨリ分岐シテ高知縣中村ニ至ル鐵道
- 百四 愛媛縣大洲附近ヨリ近永附近ニ至ル鐵道
- 百五 高知縣江川崎附近ヨリ窪川ヲ經テ崎山附近ニ至ル鐵道
- 百六 高知縣川内附近ヨリ高岡ヲ經テ宇佐ニ至ル鐵道
- 百七 高知縣後免ヨリ安藝、德島縣日和佐ヲ經テ古庄附近ニ至ル鐵道
- 百八 高知縣山田ヨリ藤野附近ニ至ル鐵道
- 九州ノ部
- 百九 福岡縣博多ヨリ佐賀縣山本ニ至ル鐵道
- 百十 福岡縣篠栗ヨリ長尾附近ニ至ル鐵道
- 百十一 福岡縣久留米ヨリ熊本縣山鹿ヲ經テ宮原附近ニ至ル鐵道
- 百十二 佐賀縣岸嶽ヨリ伊万里ニ至ル鐵道
- 百十三 佐賀縣佐賀ヨリ福岡縣矢部川、熊本縣隈府ヲ經テ肥後大津ニ至ル鐵道及隈府ヨリ分

- 百十四 佐賀縣肥前山口附近ヨリ鹿島ヲ經テ長崎縣諫早ニ至ル鐵道
- 百十五 大分縣中津ヨリ日田ニ至ル鐵道
- 百十六 大分縣杵築ヨリ富來ヲ經テ宇佐附近ニ至ル鐵道
- 百十七 大分縣幸崎ヨリ佐賀關ニ至ル鐵道
- 百十八 大分縣臼杵ヨリ三重ニ至ル鐵道
- 百十九 熊本縣高森ヨリ宮崎縣三田井ヲ經テ延岡ニ至ル鐵道
- 百二十 熊本縣高森ヨリ瀧水附近ニ至ル鐵道
- 百二十一 熊本縣宇土ヨリ濱町ヲ經テ宮崎縣三田井附近ニ至ル鐵道
- 百二十二 熊本縣湯前ヨリ宮崎縣杉安ニ至ル鐵道
- 百二十三 宮崎縣小林ヨリ宮崎ニ至ル鐵道
- 百二十四 鹿兒島縣山野ヨリ熊本縣水俣ニ至ル鐵道
- 百二十五 鹿兒島縣國分ヨリ宮崎縣都城ニ至ル鐵道
- 百二十六 鹿兒島縣國分ヨリ高須、志布志、宮崎縣福島ヲ經テ内海附近ニ至ル鐵道及高須ヨリ

- 百二十六 分岐シテ鹿兒島縣川北附近ニ至ル鐵道
- 百二十七 鹿兒島縣鹿兒島附近ヨリ指宿、枕崎ヲ經テ加世田ニ至ル鐵道
- 百二十八 北海道ノ部
- 百二十九 渡島國函館ヨリ釜谷ニ至ル鐵道
- 百三十 膽振國八雲ヨリ後志國利別ニ至ル鐵道
- 百三十一 膽振國京極ヨリ喜茂別、壯瞥ヲ經テ紋鼈ニ至ル鐵道
- 百三十二 膽振國京極ヨリ留壽都ヲ經テ壯瞥ニ至ル鐵道
- 百三十三 膽振國苫小牧ヨリ鶴川、日高國浦河、十勝國廣尾ヲ經テ帶廣ニ至ル鐵道
- 百三十四 膽振國鶴川ヨリ石狩國金山ニ至ル鐵道及「ペンケオロロツプナイ」附近ヨリ分岐シテ石狩國登川ニ至ル鐵道
- 百三十五 石狩國札幌ヨリ石狩ヲ經テ天鹽國増毛ニ至ル鐵道
- 百三十六 石狩國札幌ヨリ當別ヲ經テ沼田ニ至ル鐵道

- 百三十七 石狩國白石ヨリ膽振國廣島ヲ經テ追分ニ至ル鐵道及廣島ヨリ分岐シテ苫小牧ニ至ル鐵道
- 百三十八 石狩國比布ヨリ下愛別附近ニ至ル鐵道
- 百三十九 石狩國「ルベシベ」ヨリ北見國瀧ノ上ニ至ル鐵道
- 百四十 日高國高江附近ヨリ十勝國帶廣ニ至ル鐵道
- 百四十一 十勝國上士幌ヨリ石狩國「ルベシベ」ニ至ル鐵道
- 百四十二 十勝國芽室ヨリ「トムラウシ」附近ニ至ル鐵道
- 百四十三 天鹽國名寄ヨリ石狩國雨龍ヲ經テ天鹽國羽幌ニ至ル鐵道
- 百四十四 天鹽國羽幌ヨリ天鹽ヲ經テ下沙流別附近ニ至ル鐵道
- 百四十五 北見國興部ヨリ幌別、枝幸ヲ經テ濱頓別ニ至ル鐵道及幌別ヨリ分岐シテ小頓別ニ至ル鐵道
- 百四十六 北見國中湧別ヨリ常呂ヲ經テ網走ニ至ル鐵道
- 百四十七 北見國留邊蘂ヨリ伊頓武華ニ至ル鐵道
- 百四十八 釧路國釧路ヨリ北見國相生ニ至ル鐵道

百四十九 根室國厚床附近ヨリ標津ヲ經テ北見國斜里ニ至ル鐵道

(附記) 本委員會會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十八分

第二回 大正十一年二月二十日

出席委員

委員長	伯爵	林博太郎	副委員長	子爵	大河内正敏
委員	子爵	酒井忠亮	子爵	野村益三	
同	子爵	蒔田廣城	同	山根武亮	
同	同	和田彦次郎	同	古市公威	
同	同	内田嘉吉	同	阪谷芳郎	
同	同	中村是公	同	斯波忠三郎	
同	男爵	黒田長和	同	藤堂高成	
同	同	山之内	同	同	

出席國務大臣

鐵道大臣

元田肇

出席政府委員

鐵道次官

石丸重美

鐵道省監督局長

井出繁三郎

鐵道省運輸局長

中川正左

鐵道省建設局長

大村銅太郎

鐵道省工務局長

岡野昇

鐵道省經理局長

別府丑太郎

鐵道省參事官

木下謙次郎

開會 午前十時十二分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十一分

第三回 大正十一年二月二十一日

出席委員

委員長 伯爵 林 博太郎 副委員長子爵 大河內正敏

委員 子爵 野 村 益三 同 子爵 蔭 田 廣城

同 男爵 山 根 武亮 同 和田彦次郎

同 男爵 古 市 公 威 同 內 田 嘉吉

同 男爵 阪 谷 芳 郎 同 中 村 是 公

同 男爵 斯 波 忠 三 郎 同 男爵 黒 田 長 和

同 男爵 藤 堂 高 成 同 山 之 內 一 次

出席國務大臣 鐵道大臣 元 田 重 肇

出席政府委員 鐵道次官 石 丸 重 美

鐵道省監督局長 井 出 繁 三 郎

出席委員

鐵道省運輸局長 中 川 正 左

鐵道省建設局長 大 村 鋪 太 郎

鐵道省工務局長 岡 野 昇

鐵道省工作局長 高 洲 清 二

鐵道省經理局長 別 府 丑 太 郎

鐵道省參事官 木 下 謙 次 郎

開會 午前十時三十分 林 縣 公 同 蔭 田 忠 三 郎

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス 同 蔭 田 忠 三 郎

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス 同 山 根 武 亮

休憩 午後零時五分 同 蔭 田 忠 三 郎

開會 午後一時十五分 同 蔭 田 忠 三 郎

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス 同 蔭 田 忠 三 郎

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス 同 蔭 田 忠 三 郎

散會 午後四時三十二分

第四回 大正十一年二月二十二日

○出席委員

○委員長

○委員

○委員

○委員

○委員

○委員

○委員

○委員

出席國務大臣

出席政府委員

委員長 伯爵 林 博太郎 副委員長子爵 大河内正敏

委員 子爵 酒井 忠亮 同 子爵 野村 益三

同 子爵 蒔田 廣城 同 男爵 山根 武亮

同 和 田 彦次郎 同 男爵 古市 公威

同 內 田 嘉吉 同 男爵 阪谷 芳郎

同 中 村 是公 同 男爵 斯波 忠三郎

同 男爵 黑田 長和 同 男爵 藤堂 高成

同 山之内 一次 同 男爵 藤 堂 高成

鐵道大臣 元 田 肇

鐵道次官 石 丸 重美

鐵道省運輸局長 中 川 正左

鐵道省建設局長 大 村 錦 太郎

鐵道省工務局長 岡 野 太昇

鐵道省經理局長 別 府 丑 太郎

鐵道省參事官 木 下 謙 次郎

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時十一分

第五回 大正十一年二月二十三日

出席委員

委員長 伯爵 林 博太郎 副委員長子爵 大河内正敏

委員 子爵 酒井 忠亮 同 子爵 野村 益三

同 子爵 蒔田 廣城 同 男爵 山根 武亮

同 和田彦次郎 同 男爵 古市公威
 同 內田嘉吉 同 男爵 阪谷芳郎
 同 中村是公 同 男爵 斯波忠三郎
 出同委員 男爵 黑田長和 同 男爵 藤堂高成
 兼正回同大五十一日山之内一次

出席國務大臣

○委員 伯爵林博太郎

開會ヲ宣告ス

鐵道大臣

元田肇

○委員 出席政府委員

開會ヲ宣告ス

鐵道次官

石丸重美

開會

午後十時三十分

鐵道監督局長

井出繁三郎

出席政府委員

山之内一次

鐵道省運輸局長

申川正左

鐵道省建設局長

大村銷太郎

鐵道省工務局長

岡村野太郎

鐵道省工作局長

別府丑太郎

鐵道省參事官

木下謙次郎

鐵道省工務局長

高橋清二

鐵道省工務局長

關根

鐵道省工務局長

大川

鐵道省工務局長

大河內正敏

鐵道省工務局長

野村益三

鐵道省工務局長

山根武亮

鐵道省工務局長

內田嘉吉

鐵道省工務局長

中村是公

鐵道省工務局長

黑田長和

鐵道省工務局長

山之内一次

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

鐵道省工務局長

同

出席委員外議員

平井晴二郎

出席國務大臣

鐵道大臣

出席政府委員

鐵道次官

委員

鐵道省監督局長

出席委員

鐵道省運輸局長

第六回

鐵道省建設局長

第五回

鐵道省工務局長

第四回

鐵道省經理局長

第三回

鐵道省參事官

開會

午前十時二十二分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後零時十分

第七回 大正十一年二月二十五日

出席委員

委員長 伯爵 林博太郎 鐵道省 副委員長 子爵 大河内正敏

委員 子爵 酒井忠亮 鐵道省 同 子爵 野村正益三

同 子爵 蒔田廣城 鐵道省 同 男爵 山根武亮

同 和田彦次郎 鐵道省 同 男爵 古市公威

同 内田嘉吉 鐵道省 同 男爵 阪谷芳郎

同 中村是公 鐵道省 同 男爵 黒田長和

同 男爵 藤堂高成 鐵道省 同 男爵 山之内一次

出席國務大臣

鐵道大臣

鐵道大臣

元田肇

出席政府委員

出席國務大臣	內田 嘉吉	鐵道省監督局長	石丸 重美
同	中林 長	鐵道省運輸局長	井出繁三郎
同	內田 嘉吉	鐵道省建設局長	申川 正左
同	麻田 資大	鐵道省工務局長	天村 銅太郎
同	藤田 興	鐵道省工務局長	岡野 昇
委員 千鶴 西 忠	鐵道省經理局長	高洲 清二	別府 丑太郎
委員 山崎 林 剛太	鐵道省參事官	木下 謙次郎	

出開會 午前十時二十三分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

○委員 散會 午前十一時三十七分

○第八回 大正十一年二月二十七日

出席委員

委員長 伯爵 林 博太郎	委員 子爵 酒井 忠亮
同 子爵 野村 益三	同 子爵 藤田 廣城
同 男爵 山根 武亮	同 男爵 和田 彦次郎
同 男爵 內田 嘉吉	同 男爵 阪谷 芳郎
同 男爵 斯波 忠三郎	同 男爵 藤堂 高成
同 男爵 山之內 一	同 男爵 大洲 清二

出席政府委員

大正十一年二月二十八日

鐵道省監督局長 石丸 重美

鐵道省運輸局長 井出繁三郎

鐵道省建設局長 中川 正左

鐵道省工務局長 大村 銅太郎

鐵道省工務局長 岡野 昇

鐵道省工務局長 高洲 清二

開會 午前十時二十八分
鐵道省經理局長 別府丑太郎

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時十一分

第九回 大正十一年二月二十八日

出席委員

委員長	伯爵	林博太郎	副委員長子爵	大河内正敏
委員	子爵	酒井忠一	子爵	野村益三
同	子爵	蒔田廣城	男爵	山根武亮
同	男爵	和田彦次郎	同	内田嘉吉
同	男爵	阪谷芳郎	同	中村是公
同	男爵	斯波忠三郎	同	黒田長和
同	男爵	藤堂高成	同	山之内一次

出席國務大臣

鐵道大臣 元田肇

出席政府委員

鐵道次官 石丸重美

鐵道省監督局長 井出繁三郎

鐵道省運輸局長 中川正左

鐵道省建設局長 大村銅太郎

鐵道省工務局長 岡野昇

鐵道省工作局長 高洲清二

鐵道省經理局長 別府丑太郎

開會 午前十一時五十分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時十六分

第十回 大正十一年三月一日

出席委員

委員長	伯爵 林博太郎	副委員長	子爵 大河内正敏
委員	子爵 酒井忠亮	同	子爵 野村益三
同	子爵 蒔田廣城	同	男爵 山根武亮
同	和田彦次郎	同	内田嘉吉
同	男爵 阪谷芳郎	同	中村是公
同	男爵 斯波忠三郎	同	男爵 黒田長和
同	男爵 藤堂高成	同	山之内正次

出席國務大臣

鐵道大臣

元田重肇

出席政府委員

鐵道次官

石丸重美

鐵道省監督局長

井出繁三郎

第十回開會 午前十時二十五分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時七分

第十一回 大正十一年三月二日

出席委員

委員長	伯爵 林博太郎	副委員長	子爵 大河内正敏
委員	子爵 野村益三	同	子爵 蒔田廣城

鐵道省運輸局長

中川正左

鐵道省建設局長

大村鎬太郎

鐵道省工務局長

岡野太昇

鐵道省工作局長

高洲清二

鐵道省經理局長

別府丑太郎

鐵道省參事官

木下謙次郎

同	男爵	山根	武亮	同	和田	彦次郎
同	男爵	古市	公威	同	內田	嘉吉
同	男爵	阪谷	芳郎	同	中村	是公
同	男爵	斯波	忠三郎	同	藤堂	高成
同	男爵	山之	內一次			

○出席國務大臣

鐵道大臣	元田	肇
------	----	---

○出席政府委員

鐵道次官	石丸	重美
鐵道省監督局長	井出	繁三郎
鐵道省運輸局長	中川	正左
鐵道省建設局長	大村	鏞太郎
鐵道省工務局長	岡野	太昇
鐵道省工作局長	高洲	清二

○出席委員

鐵道省經理局長	別府	丑太郎
鐵道省參事官	木下	謙次郎

開會 午前十時二十二分

○委員長伯爵林博太郎

○委員長伯爵林博太郎

散會 午後零時二十四分

第十二回 大正十一年三月三日

出席委員

副委員長子爵	大河	內正	敏	委員	子爵	酒井	忠亮
同	子爵	野村	益三	同	子爵	蔣田	廣城
同	男爵	山根	武亮	同		和田	彦次郎
同	男爵	古市	公威	同		內田	嘉吉
同	男爵	阪谷	芳郎	同		中村	是公
同	男爵	斯波	忠三郎	同		黑田	內長和

出席委員

鐵道省監督局長 井出繁三郎

出席國務大臣

鐵道省運輸局長 中川正左

出席委員

鐵道省建設局長 大村錦太郎

開會 午前十時二十七分

鐵道省工務局長 岡野昇

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

鐵道省參事官 別府丑太郎

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

木下謙次郎

休憩 午後零時三分

同 山之内大

開會 午後一時二十八分

同 岩倉重

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

同 中林基公

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

同 吉市公

散會 午後三時五十二分

同 山縣九

第十七回 大正十一年三月十四日

出席委員

委員長伯爵林博太郎 副委員長子爵大河内正敏

委員子爵野村益三 同子爵蒔田廣城

同子爵山根武亮 同子爵和田彦次郎

同子爵古市公威 同子爵内田嘉吉

同子爵阪正谷芳郎 同子爵中村是公

同子爵斯波忠三郎 同子爵岩倉道俱

同子爵藤堂高成 同子爵山之内一次

出席委員外議員

男爵池田長康 鐵道省事務局長 江木五翼

出席國務大臣

鐵道大臣 元田肇

出席委員

出席國務大臣

出席委員外議員

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

同 藤堂 高

同 中村 是

法制局參事官

鐵道次官

鐵道省監督局長

鐵道省運輸局長

鐵道省建設局長

鐵道省工務局長

鐵道省經理局長

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

馬場 鏡一

石丸 重美

井出 繁三郎

中川 正左

大村 鋪太郎

岡 文野

別府 丑太郎

中 林 長公

内田 嘉吉

味田 泰太郎

藤田 龍雄

大河内 五郎

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

散會 午後五時一分 井田 長

第十八回 大正十一年三月十五日

第十出席委員 五十一年三月十六日 大 郎

委員 長 子 伯 爵 一 畑 林 十 六 公 博 太 郎

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

委員 長 同 伯 爵 子 爵 益 三

鐵道大臣

元 田 重 肇

開會 午前十時四十五分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

出休憩 午前十一時四十五分

開會 午後一時四十五分 内 一 次

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後四時二十二分

第二十回 大正十一年三月十七日 水 曜 日

出席委員 伯爵 林 博 太郎

委員長 伯爵 林 博 太郎

鐵道省工務局長 岡 林 野 藏 次 郎

鐵道省經理局長 別 府 丑 太郎

鐵道省參事官 木 下 謙 次 郎

鐵道省參事官 下 火 重 美

鐵道省參事官 大 村 謙 太郎

鐵道省參事官 元 田 謙 太郎

鐵道省參事官 大 河 内 正 敏

鐵道省參事官 藤 堂 高 丸

鐵道省參事官 津 野 忠 三 郎

鐵道省參事官 羽 谷 武 吉 郎

鐵道省參事官 古 市 公 威 郎

鐵道省參事官 山 根 武 亮 郎

鐵道省參事官 大 河 内 正 敏

委員 子爵 酒 井 忠 亮 同 子爵 野 村 忠 益 三 郎

同 子爵 蒔 田 内 廣 城 同 男爵 山 根 武 亮

同 男爵 和 田 彦 次 郎 同 男爵 古 市 公 威

同 男爵 阪 谷 芳 郎 同 男爵 中 村 是 公

同 男爵 斯 波 忠 三 郎 同 男爵 藤 堂 高 成

同 男爵 山 之 内 六 次 郎 同 男爵 藤 堂 高 成

出席國務大臣

第二十回 大正十一年三月二十日

鐵道大臣 元 田 肇

鐵道大臣 高 橋 是 清

鐵道大臣 井 出 繁 三 郎

鐵道大臣 中 川 正 左 衛 門

鐵道大臣 大 村 銷 太 郎

鐵道大臣 岡 野 清 昇

開會 午前十時十八分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十八分

第二十一回 大正十一年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵 林博太郎	副委員長子爵 大河内正敏
委員 子爵 酒井忠亮	同 子爵 野村益三
同 子爵 蒔田廣城	同 男爵 山根武亮
同 大正十一年三月二十日 和田彦次郎	同 男爵 古市公威
同 男爵 内田嘉吉	同 男爵 阪谷芳郎
同 男爵 中村是公	同 男爵 斯波忠三郎

鐵道省工作局長 高洲清二
 鐵道省經理局長 別府丑太郎

出席國務大臣 山之内 一次
 同 貴族男爵 倉倉道二 俱
 同 同十五員男爵 藤堂 高成

大正十一年三月二十日

出席出席政府委員

鐵道敷設法案

(附項)

○委員伯爵林博太郎 開會ヲ命ス

○委員伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

開會 午前十一時四十分

散會 午前十二時

○委員伯爵林博太郎 開會ヲ命ス

○委員伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

開會 午前十一時九分

鐵道次官 石丸 重美
 鐵道省監督局長 井出繁三郎
 鐵道省運輸局長 中川 正左
 鐵道省建設局長 大村 銅太郎
 鐵道省工務局長 岡 野 昇
 鐵道省工作局長 高洲 清二
 鐵道省經理局長 別府 丑太郎
 鐵道省參事官 木下 謙次郎

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時十二分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

鐵道敷設法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十日

出淵園齋大郎

同

同 貴族院議長公爵德川家達殿

鐵道省工務局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省工務局長

鐵道省工務局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

鐵道省警備局長

高橋 三郎

米本 齋次郎

阪本 正太郎

高橋 三郎

岡 理

大村 龍太郎

中川 五三郎

共出 三郎

河内 重三郎

野村 益三郎

武田 武藏

古市 公威

林 容博太郎

藤堂 忠高

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第二十九號四百五十五頁參照

鐵道敷設法案中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス副委員長 子爵

委員長

○大正十一年二月二十一日議長ノ報告ヲ以テ鐵道敷設法案中改正法律案及鐵道敷設法案中改正法律案特別委員會ヲ選定ス

別委員ヲ選定ス

委員長 伯爵

林 博太郎 印

副委員長 子爵

大河内 正敏 印

○委員長 林博太郎
 ○委員 林博太郎 休職ヲ命ス
 休職 午後零時十二分
 開會 午後一時四十分
 ○委員長 林博太郎 報告ヲ命ス
 報告 午後三時五十分
 (附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告在リ知シ
 鐵道敷設法案
 右別冊ニ添付正七ノ依テ及報告候也
 大正十一年三月二十日
 臨委員長 林博太郎
 委員 林 博太郎
 (附記) 鐵道敷設法案委員會議錄ニ二十八號四百五十五頁參照

酒造稅法中改正法律案特別委員會
 織物消費稅法中改正法律案特別委員會

大藏省 圖書 草 間 衣 華
 大藏省主簿 田 本 重 龜

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十一年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ酒造稅法中改正法律案及織物消費稅法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出選委員	候補委員	委員
第一回 大正十一年二月二十八日	第二回 大正十一年四月一日	第三回 大正十一年五月一日
侯爵 細川 護立	子爵 西尾 忠方	男爵 荒井賢太郎
男爵 小畑大太郎	男爵 東 郷 安	和 田 豐 治
八木久兵衛	石橋 謹二	

委員長及副委員長選舉

○大正十一年二月二十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- 西川甚五郎
- 八木八兵衛
- 細川護立
- 西尾大忠
- 西尾大忠
- 西尾大忠
- 西尾大忠

會議

第一回 大正十一年二月二十八日

出席委員

眼委員長 侯爵 細川 護立

副委員長 子爵

西尾 忠方

○大五十委員 二十一日荒井賢太郎 齋藤中五郎 齋藤小登 畑大次郎 齋藤

齋藤 男爵 東 郷 安

(出席政府委員 眼委員會 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤)

齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤

齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤

大藏省主稅局長
大藏書記官

松本重威
草間秀雄

○委員開會 午前十一時二十八分

○委員長侯爵細川護立 開會ヲ宣告ス

大藏書記官

草間 秀雄

(參照) 午前十一時五十七分

大藏省主稅局長

草間 秀雄

酒造稅法中改正法律案、委員長ノ報告左ノ如シ

酒造稅法中左ノ通改正ス 木 八 兵 衛

同

西 尾 忠 方

右第八條中「百分五」ヲ「百分七」ニ、「百分二」ヲ「百分三」ニ、「百分一」ヲ「百分二」ニ改

ム 委 十 員 年 三 月 二 日 議 決 共 贊 太 瀧

同

小 泉 大 太 瀧

委 附 則 附 則 附 則 附 則 附 則 附 則 附 則 附 則 附 則 附 則

同

小 泉 大 太 瀧

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二回 織物消費稅法中改正法律案

織物消費稅法中左ノ通改正ス

○委 第二十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

(前項ノ組合ニ對シテハ命令ヲ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

本法ハ附五則一準四員一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵細川護立 散會ヲ命ス

散會 午後零時十三分

第二回 大正十一年三月二日

出席委員 十一名 四月一日ヨリ之ヲ施行ス

委員長 侯爵 細川 護立

副委員長 子爵

西尾 忠方

委員 荒井賢太郎

同 男爵

小畑大太郎

同 男爵 東川郷

同 男爵

和田 豊治

同 男爵 木久兵衛

同 男爵

石橋 謹二

出席政府委員 五名

大藏省主稅局長

松本 重威

大藏書記官

草間 秀雄

開會 午前十時二十六分

大藏書記官

草間 秀雄

○委員長侯爵細川護立 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵細川護立 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

酒造税法中改正律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二日

右特別委員長

侯爵 細川 護立

貴族院議長公爵徳川家達殿

織物消費税法中改正律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二日

右特別委員長

星島 謹一郎
三階 三郎左衛門

(附記) 社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案、國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案ハ大正

十一年三月二十日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ國有財産整理資金特別會計法案特別委員

ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

伯爵 柳 澤 保 惠

○大正十一年三月二十一日委員長ハ 伯爵 目賀田 種太郎

會議

第一回 大正十一年三月十三日

出席委員 伯爵 池田 長 康

委員 子爵 八 條 隆 正

同 男爵 鄉 誠 之 助

本誌同大正十一年三月十三日

出席政府委員

大藏 次 官 神野 勝之助

大藏省主計局長 西平 野 元

主計局書記官 河本 文一

開會 午前十時三十一分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

(參照)

國有財産整理資金特別會計法案

國有財産整理資金特別會計法

第一條 國有財産整理資金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 國有財産整理資金ハ國有財産ノ整理處分ニ因ル收入及附屬雜收入ヲ以テ之ニ充ツ但シ

其ノ收入ニシテ他ノ特別會計ノ歲入ニ屬スルモノ及國有林野又ハ北海道國有未開地ノ處分ニ

因ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 國有財産整理資金ハ國有財産ノ整理ニ關シ必要ナル事務費、營繕費其ノ他ノ諸費ニ之ヲ使用ス

第四條 國有財産整理資金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第五條 國有財産整理資金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第六條 一般ノ歳計上必要アル場合ニ於テハ豫算ノ定ムル所ニ依リ國有財産整理資金ヲ第三條ニ規定スル費途以外ノ營繕費ニ使用スルコトヲ得

第七條 政府ハ毎年國有財産整理資金ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 國有財産整理資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

第九條 國有財産整理資金ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

出附則

本法ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

大藏大臣 委員 子爵 八 正 同 男爵 縣 之助

社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案

第一條 社寺境内地ニシテ現ニ國有ニ屬スル現境内地ハ之ヲ其ノ社寺ニ下付スヘシ

第二條 本法ニ依ル下付ノ申請ハ大正十四年七月三十一日迄ニ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

第三條 此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ其ノ指令ヲ受クタル日ヨリ三箇月内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 第一條ニ依リ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ境内地及立木竹ノ所有權ヲ取得ス

前項ニ依リ所有權ヲ取得シタル者ハ其ノ土地及立木竹ニ付第三者ノ現ニ有スル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第五條 本法ニ依リ下付ヲ受ケタル境内地及立木竹ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ地上權、抵當權若ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六條 本法施行前行政處分又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタル者ト雖本法ニ依リ下付ノ申請ヲ爲スコトヲ妨ケス

附則

本法ハ大正十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案

第一條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法第一條ノ期限内ニ下戻ノ申請ヲ爲ササル者ハ大正十二年三月三十一日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ社寺ノ現境内地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ申請ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニ依リ申請シタル者又ハ此ノ法律施行以前ニ下戻ニ關スル申請書又ハ願書ヲ差出シ此ノ法律ニ依リタルモノト看做サレタルモノニシテ主務大臣ノ處分ニ對シ期限内ニ出訴セザル者ハ大正十二年三月三十一日迄ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ社寺ノ現境内地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十八分

第二回 大正十一年二月十六日

出席委員

委員長 伯爵 柳澤保惠 副委員長男爵 賀田種太郎

委員 大 山綱昌 同 男爵 池田長康 同

同 仁尾惟茂 同 星島謹一郎

出席政府委員

大藏省主計局長 西野元

主計局書記官 河本文一

開會 午後一時二十分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

○委員仁尾惟茂 財産ノ使用料ハ此ノ整理資金ノ收入トナルヤ

○政府委員西野元 管理ヨリ生スルモノハ此ノ收入タラス整理ノ爲賣却セラレタル代金ノ如キモノカ收入トナルナリ

○委員仁尾惟茂 何故ニ凡テノモノヲ包含セシメサリシヤ其ノ局限シタル理由如何

○政府委員西野元 本案ノ趣旨タルヤ現在不整頓ナル財産ヲ換價シタルモノヲ入レル趣旨ナリ御

- 說ノ如キ收入ハ一般ノ財源ニ當ルヘキ性質ノモノナリ
- 委員仁尾惟茂 本案第六條ニ營繕費トアルハ新築費修繕費ノ兩者ヲ包含スルヤ
- 政府委員西野元 兩者ヲ包含ス但シ此ノ規定ハ例外ナルヲ以テ嚴正ニ之ヲ適用スル考ナリ
- 委員仁尾惟茂 本案第九條ノ如キ規定ハ果シテ妥當ナリヤ之ヲ豫算ニ定メテ差支ナキニアラサルカ此ノ他特別資金法案ノ例モ左様ナリヤ
- 政府委員西野元 之ハ一般ノ用例ナリ公債金特別會計法ノ如キモ然リ
- 委員男爵目賀田種太郎 國有財産法ノ既ニ制定セラレタル今日ニ於テハ他ノ種類ノ財産例セハ帝室ノ財産、神社ノ財産、社寺ノ財産ノ財産法ヲ制定スル必要ナキヤ
- 政府委員西野元 神社ノ財産ニ付テハ明治四十一年法律第二十三號神社財産ニ關スル法律ニ依ツテ管理セラル寺有財産ニ至ツテハ太政官布告ノ如キモノアルニ過キス將來宗教法ノ如キモノ制定セラレハ是等モ統一セラルルナルヘシ
- 委員男爵目賀田種太郎 寺有財産法ノ制定ナキ爲是等ノ財産ノ處分等ニ付實際上ニ於テ不便不安ヲ感スル實例アリ是等ハ國家ノ重要ナル設備トシテ一日モ早ク法律ヲ制定スヘキモノト考フ
- 政府委員西野元 目下ノ状態ハ只今述ヘタル通りニシテ寺有財産ニ至ツテハ内務當局モ遺憾ヲ

感シテ居ル由ナル故近ク其ノ運ヒニ至ルヘシ

○ 委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午後一時五十分

第三回 大正十一年三月二十日

出席委員

○ 委員長 伯爵 柳澤保惠 副委員長男爵 目賀田種太郎

○ 委員 子爵 八條隆正 同 大山綱昌

○ 同 男爵 池田宗長 康 同 尾崎惟茂

○ 同 星島謹一郎

○ 出席國務大臣

○ 出席政府委員

○ 委員

○ 主計局書記官

○ 大藏省主計局長

○ 西野元

○ 河本文一

開會 午後二時十分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

○委員男爵目賀田種太郎 帝室財産、地方有財産、神社有財産、寺有財産是等ノ法制ヲ制定スル必要アリト考フ現在是等ノ規定ナキ爲不便不都合ヲ感セリ當局ノ所見如何

○國務大臣中橋徳五郎 文部當局ノ關係アル寺有財産ニ付テハ相當ノ取締ハ現今モ爲シツアレトモ未タ十分ナラス故ニ充分ナル取締方法ヲ設クル必要アリト考ヘ居レリ目下當局ノ計畫トシテハ近ク制定ニ着手セムトスル宗教法ノ中ニ財産法モ規定シタキ考ニシテ折角調査研究中ナレハ其ノ内何トカ確定致シタシ

○委員長伯爵柳澤保惠 本案ヲ表決ニ付ス

出可決

○委員長伯爵柳澤保惠 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後二時三十分

○(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

國有財産整理資金特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十日

右特別委員長

委員 伯爵 柳澤保惠
委員 伯爵 目賀田種太郎
委員 伯爵 仁尾惟茂
委員 伯爵 山田準次郎
委員 伯爵 西野元
委員 伯爵 河本文

第四回 大正十一年三月二十四日

出席委員

委員長 伯爵 柳澤保惠
副委員長 男爵 目賀田種太郎
委員 男爵 仁尾惟茂

○委員出席政府委員

開會 午前十一時六分

主計局書記官

文部省宗敎局長

栗屋文謙

農商務省山林局長

中井勵作

開會 午前十一時六分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十五分

第五回 大正十一年三月二十五日

○出席委員

委員長 伯爵 柳澤保惠

副委員長男爵 目賀田種太郎

委員 大山綱昌

同 男爵 郷誠之助

同 仁尾惟茂

出席政府委員

河本文一

主計局書記官

農商務省山林局長

中井勵作

開會 午前十一時三十九分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時五十八分

開會 午後零時六分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午後零時十五分

(附記) 社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案及國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案ハ本院

ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 伯爵 柳澤保惠印

副委員長 男爵 目賀田種太郎印

○大正十一年二月二十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	清	棲	家	教
副委員長	男爵	阪	谷	芳	郎

會議

第一回 大正十一年二月二十八日

出席委員

委員長	伯爵	清	棲	家	教	委員長	子爵	吉	田	清	風	
同	男爵	南	岩	倉	具	威	同	笠	井	信	一	
同		永	田	秀	次	郎	同	大	谷	嘉	兵	衛

出席政府委員

內務省地方局長

塚本 清 治

○大正十開會ニ午後一時十八分

○委員長伯爵清棲家教 開會ヲ宣告ス

六(参照)

六大都市行政監督ニ關スル法律案

市ノ公共事務及法律ノ定ムル所ニ依リ市又ハ市長ニ屬スル國ノ事務ニ關シ府縣知事ノ許可又ハ認可ヲ要スル事件ニ付テハ東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可又ハ認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵清棲家教 散會ヲ命ス

散會 午後二時二十一分

第二回 大正十一年三月二日

出席委員

委員長	伯爵	清	棲	家	教	副委員長	男爵	阪	谷	芳	郎	
委員	子爵	吉	田	清	風	同	男爵	南	岩	倉	具	威
同		笠	井	信	一	同		小	山	健	三	

同 大谷 嘉兵衛

出席國務大臣

內務大臣

床次竹二郎

出席政府委員

內務省地方局長

塚本 清治

開會 午前十時二十八分

○委員長伯爵清棲家教 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵清棲家教 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十四分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

六大都市行政監督ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二日

右特別委員長

貴族院議長伯爵德川家達殿

伯爵 清棲 家教

委員長 伯爵 清棲 家教 印

副委員長 男爵 阪谷 芳郎 印

(附記) 感化法中改正法律案ハ大正十一年三月十一日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ少年法案外一件特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正十一年二月二十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 候補 湯淺 倉平
副委員長 荒川 義太郎 江原 素六

○大正十一年三月四日

第一回 大正十一年三月四日

(出席委員) 各特別委員

湯淺 倉平 江原 素六
田所 美治
花山院 親家
富谷 銜太郎
若王子 文健
荒川 義太郎
同 男爵
勘解由 小路 資承
同

湯淺 倉平 同 江原 素六

出席國務大臣

司法大臣 伯爵 大木 遠吉

出席政府委員

司法次官 山内 確三郎

司法省民事局長 池田 寅二郎

司法省監獄局長 山岡 萬之助

司法省參事官 岩村 通世

開會 午前十時三十五分

○委員長侯爵花山院親家 開會ヲ宣告ス

(參照) 少年法案

第一章 少年法

第一節 第一章 通則

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タサル者ヲ謂フ
 第二條 少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル
 第三條 本法ハ第七條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ外陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ掲ケタル者ニ之ヲ適用セス

第二章 保護處分

第四條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 訓誡ヲ加フルコト
- 二 學校長ノ訓誡ニ委スルコト
- 三 書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト
- 四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト
- 五 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト
- 六 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト
- 七 感化院ニ送致スルコト

八 矯正院ニ送致スルコト

九 病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ヲ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章 刑事處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス

刑法第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メテ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス

前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス
刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第九條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人十八歳ニ達シタル後ト雖二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

- 一 無期刑ニ付テハ七年
- 二 第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三年
- 三 第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消ササル

コトナクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行ヲ終リタルモノトス

少年ニシテ第七條第一項又ハ第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 少年ニ對シテハ勞役場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十四條 少年ノ時犯シタル罪ニ因リ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行免除ヲ受ケタルモノハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終ヘタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ其ノ取消サレタル時刑ノ言渡アリタルモノト看做ス

第四章 少年審判所ノ組織

第十五條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク

第十六條 少年審判所ノ設立、廢止及管轄ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 少年審判所ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所長ニ少年審判所ノ監督ヲ命スルコトヲ得、

第十八條 少年審判所ニ少年審判官、少年保護司及書記ヲ置ク

第十九條 少年審判官ハ單獨ニテ審判ヲ爲ス

第二十條 少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ管理シ所部ノ職員ヲ監督ス

第二十一條 少年審判官ハ判事ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

判事タル資格ヲ有スル少年審判官ハ判事ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十二條 少年審判官審判ノ公平ニ付嫌疑ヲ生スヘキ事由アリト思料スルトキハ職務ノ執行ヲ避クヘシ

第二十三條 少年保護司ハ少年審判官ヲ輔佐シテ審判ノ資料ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育ニ經驗ヲ有スル者其ノ他適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スルコトヲ得

第二十四條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ庶務ニ従事ス

第二十五條 少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五章 少年審判所ノ手續

第二十六條 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十七條 左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

一 死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者

二 十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シタル者

第二十八條 刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

十四歳ニ滿タサル者ハ地方長官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

少年法案外二件特別委員會

第二十九條 少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲スヘキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條 通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘク本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齢、職業、性行等ヲ申立テ且參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ錄取スヘシ

第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十二條 少年審判所ハ少年保護司ニ命シテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條 少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命シ又ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命シ調査ノ爲必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取スヘシ

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年護保司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 條件ヲ附シ又ハ附セスシテ保護者ニ預クルコト

二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三 病院ニ委託スルコト

四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト思料シタルトキハ審判期日

第四十一條 審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得

本人ハ保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任スルコトヲ得

附添人ハ辯護士ハ保護事業ニ従事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツ

ヘシ

第四十三條 審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認ムルトキハ保護者ハ之ヲ

呼出ササルコトヲ得

第四十四條 少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ本人ヲ在席セシムルコ

トヲ得

第四十五條 審判ハ之ヲ公行セス但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ従事スル者其ノ他

相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條 少年審判所審判ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ終結處

分ヲ爲スヘシ

第四十七條 刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ

裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴追ノ必要アリト

認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ

檢事ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ

通知スヘシ

第四十八條 訓誡ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘ

キ事項ヲ諭告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條 學校長ノ訓誡ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ訓誡ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

第五十條 改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委嘱スヘシ

第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ前三條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適

當ナル親權者、後見人、戸主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ

第五十六條 少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 少年審判所第五十一條及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條 少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第六十條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第六十一條 第三十五條及前條ノ費用並矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得
前項費用ノ徴收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章 裁判所ノ刑事手續

第六十二條 檢事少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ

第六十三條 第四條ノ處分ヲ受ケタル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該ルヘキ事件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ付刑事訴追ヲ爲スコトヲ得ス但シ第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調査ヲ爲スヘシ
少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十五條 裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 勾留狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得ス
拘置監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘシ

第六十八條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ
第六十九條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限リ其ノ手續ヲ分離スヘシ

第七十條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得

第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ
檢事ハ前項ノ決定ニ對シ三日内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第七十三條 第四十二條、第四十三條第二項第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

矯正院法案

第六十 矯正院法

第一條 矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス

第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十三歳ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 矯正院ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク

第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ク

第五條 十六歳ニ滿タサル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス

第六條 矯正院ハ之ヲ國立トス

第七條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス

第八條 司法大臣ハ少クトモ六月毎ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ

少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ

第九條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲嚴格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ施シ其ノ生活ニ必要ナル

實業ヲ練習セシム

第十條 矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得

第十一條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得

第十二條 矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムル
トキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲシテ退院セシムヘシ

第十三條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノ
ニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

第十四條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退
院ヲ取消スコトヲ得

第十五條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコ
トヲ得

少年法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除ク外在院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ

第十七條 前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ニ付之ヲ準
用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○委員 感化法中改正法律案

○委員 感化法中左ノ通改正ス

第五條第一號中「十八歳」ヲ「十四歳」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 少年審判所ヨリ送致セラレタル者

第六條中「第三號」ノ下ニ「又ハ第四號」ヲ加フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條第一號ニ規定スル地方長官ノ權限ハ少年法ニ依ル保護處分ノ實施セラレサル地區ニ限リ
仍從前ノ例ニ依ル

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長 侯爵花山院親家 散會ヲ命ス

散會 午後零時十九分

第二回 大正十一年三月六日

出席委員

委員長 侯爵 花山院親家 副委員長 田所美治
 委員 子爵 勘解由小路資承 同 富谷銈太郎
 同 男爵 若王子文健 同 江原素六
 出席政府委員

司法次官 山内確三郎
 司法省監獄局長 山岡萬之助
 司法省參事官 岩村通世

開會 午後一時三十五分

○委員長侯爵花山院親家 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵花山院親家 散會ヲ命ス

散會 午後三時二十一分

第三回 大正十一年三月十三日

出席委員

委員長 侯爵 花山院親家 副委員長 田所美治
 委員 子爵 勘解由小路資承 同 富谷銈太郎
 同 荒川義太郎 同 男爵 若王子文健
 同 湯淺倉平

出席政府委員
 內務次官 小橋一太
 內務省社會局長 田子一民
 司法次官 山内確三郎
 司法省監獄局長 山岡萬之助
 司法省參事官 岩村通世

開會 午前十時三十四分

○委員長侯爵花山院親家 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵花山院親家 散會ヲ命ス

散會 午後零時七分

第四回 大正十一年三月十七日

出席委員

副委員長

田所 美治 委員 子爵

勘解由小路 資承

同

富谷 銈太郎 同

荒川 義太郎

同

男爵 若王子 文健 同 男爵

千秋 季隆

出席政府委員

內務次官

小橋 一太

內務省社會局長

田子 一民

司法省監獄局長

山岡 萬之助

司法事務官

宮城 長五郎

文部省普通學務局長

赤司 鷹一郎

開會 午前十時二十分

○副委員長 田所美治 開會ヲ宣告ス

○委員 富谷銈太郎 少年審判官及少年保護司ノ適當ナルモノヲ得ル見込アリヤ又少年審判所ノ數

ハ二箇所トノ事ナルカ其ノ他ニ必要ナキヤ否ヤ尙少年審判所ノ監督ハ司法大臣ノ司ル所ナリ然

ラハ其ノ監督ノ方法ハ如何裁判所構成法ノ規定ヲ準用スルモノナリヤ

○政府委員 山岡萬之助 其ノ人ヲ得ルノ必要ナルハ勿論ニシテ本案ヲ提出スル當時ヨリ當局ニ於

テハ此點ニ付テハ苦心シツツアリ現今三府五港ニテハ特定ノ判事檢事ヲシテ特ニ少年事件ヲ專

門ニ取扱ハシメツツアリ是等ヲシテ兼任セシムル豫定ナリ保護司ノ如キモ希望者アリ履歷書モ

相當提出アル次第ナリ少年裁判所ノ數ハ差當リ東京大阪ニ設置スル考ニシテ最初當局ニ於テハ

全國ノ地方裁判所ニ設置スル豫定ナリシモ種々ノ都合ニテ此ノ理想ヲ實現スル能ハス故ニ差當

リ東京大阪ノ二箇所トセリ而シテ最モ不良少年ニ困却セルハ東京市大阪市ナリ近キ將來ニ於テ

必要ナル擴張ヲ爲ス考ナリ監督ハ司法大臣ノ司ル所ニシテ全體トシテ地方裁判所長又ハ控訴院

長ニ委任スヘシ大體ハ司法行政ニ依ル裁判所構成法ヲ準用スルモノニアラス

○委員 富谷銈太郎 監督ヲ地方裁判所長又ハ控訴院長ニ委任ストセハ省令又ハ個々ニ辭令ヲ用ユ

ル考ナリヤ

九百十一

○化院ニ依ツテ爲シ得ルニアラスヤ
 ○政府委員小橋一太 感化院ト矯正院ト兩者相俟ツテ效果アルモノト思ヒ同意セシナリ
 ○委員男爵若王子文健 矯正院ハ之ヲ内務省ノ權限内ニ置クヲ可トセスヤ
 ○政府委員小橋一太 感化院ヨリ不良性ノ程度高キ者ヲ別ニ置クハ可ト信ス刑事政策ノ見地ヨリシテ司法省ノ管轄内ニ置クコトニ賛成セリ
 ○委員江原素六 矯正院ノ場所ハ可ナリ廣キモノト考ヘラル如何
 ○政府委員山岡萬之助 相當廣キ場所ヲ要スル豫定ナルモ具體的ノ事ハ未定ナリ
 ○委員田所美治 感化院ニテ相當ノ效果アルニ拘ラス何ノ必要アツテ矯正院ノ如キモノヲ設ケ司法大臣ノ權限ニ移シタルヤ理由不明ナリ感化院法ヲ改正シテ矯正院ニ於ケルカ如キ目的ヲ達シ得ルニアラスヤ
 ○政府委員小橋一太 矯正院ハ刑事政策トシテ内務當局ノ方法ヨリ嚴重ナル取締ヲ爲スヘク兩兩相俟ツテ效果ヲ擧ケ得ルト思ヒ之ニ賛成セリ又同程度ノ惡性ノモノヲ集ムルハ程度ノ高キモノト低キモノト混スルヨリ其ノ效果大ナリト思考サルナリ
 ○副委員長田所美治 散會ヲ命ス

散會 午後零時二十分

第五回 同大正十一年三月十八日

出席委員 長 若王子文健 副委員長 田所美治
 同委員 富谷銈太郎 同委員 男爵 湯淺倉平
 同委員 男爵 千秋季隆 同委員 男爵 若王子文健

出席政府委員 六 小橋一太

○委員長 田所美治 內務次官 小橋一太
 (稱謂) 本委員會事務ハ若王子文健ニ轉シタリ
 ○副委員長 田所美治 內務省社會局長 田子一民
 ○委員 男爵 若王子文健 司法次官 山内確三郎
 同委員 富谷銈太郎 司法省刑事局長 林賴三郎
 同委員 男爵 千秋季隆 司法省監獄局長 山岡萬之助
 同委員 男爵 湯淺倉平 司法省參事官 岩村通世

司法事務官

宮城長五郎

文部省普通學務局長

赤司鷹一郎

開會 午後四時四十八分

○副委員長田所美治 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○副委員長田所美治 散會ヲ命ス

散會 午後六時十四分

第六回 大正十一年三月二十日

出席委員

副委員長 田所美治

委員 子爵

勸解由小路資承

同委員 富谷銚太郎

同委員 荒川義太郎

同委員 若王子文健

同委員 男爵 若王子文健

同委員 男爵 千秋季隆

同委員 湯川淺菜倉

出席政府委員

江原素六

内務省社會局長

田子

司法次官

山内確三郎

司法省監獄局長

岡萬之助

司法事務官

宮城長五郎

司法省參事官

岩村通世

開會 午後一時四十五分

○副委員長田所美治 開會ヲ宣告ス

○委員男爵若王子文健 審判所二個所ニ於ケル審判官ハ幾人程ナリヤ

○政府委員山岡萬之助 二個所ニ置ク審判官ハ合計八名ナリ而シテ之ニ保護司十六人ヲ附屬セシ

ム

○委員男爵若王子文健 東京ニ何人程置ク計畫ナリヤ

○政府委員山内確三郎 大體二個所ニ平均スル考ナリ

○委員男爵若王子文健 本案ニ刑事處分ト保護處分ヲ規定セルハ適當ニアラスト考フ當局ノ意見

如何

○政府委員山内確三郎 少年ニ對シテ保護處分ヲ爲スノミナラス刑事處分ヲ爲ス場合アルヲ以テ是等ニ關スル規定ヲ同時ニ規定スルヲ相當ナリト認ム

○委員富谷銈太郎 本案ニ對シテハ質問略終了シタリト認ム是ヨリ直ニ討議ニ移リテハ如何

○副委員長田所美治 富谷委員ノ提出セラレタル動議ニ付テハ異議ナキヤヲ諮フ
異議ナシ

○副委員長田所美治 本案ヲ討議ニ付スル旨宣告ス

○委員富谷銈太郎 本案ハ少年ノ保護上最國家的ニ有益ナル趣旨ノ下ニ提出セラレタルモノト信スルカ故ニ本員ハ本案ヲ直ニ可決セラレムコトヲ希望ス今其ノ賛成ノ理由ヲ述ヘム不良少年ハ其ノ數多クシテ社會ニ害毒ヲ流スコト大ナルモ其ノ事件ハ裁判所ノ審判ニ移サスシテ檢事ノ手ニ於テ不起訴處分ニ了ルコト多數ナリ此等ノ者ノ取締ヲ爲シ之ヲ矯正スルニハ現在ノ感化院ノ力ニノミ依頼シ居リテハ到底充分ナル效果ヲ舉クルコト能ハス故ニ本案ノ施行セラレルアラムカ其ノ缺陷ヲ補フニ充分ナリト信ス但疑問トスル所ハ不良少年ノ取扱ニ關シ司法官ノミヲ以テスルトキハ司法官ハ理論ニノミ傾キテ社會ヲ實情ニ通セサルカ故ニ或ハ司法官ニノミ委セルハ好マシカラスト謂フ者アルヤモ知レサレトモ本員ノ見ル所ニテハ司法權ノ始テ獨立トナリシ當

○時ハ經驗ニ乏シカリシヲ以テ司法事務ノ取扱上遺憾ナキ場合少カラサリシモ社會ノ發展スルニ伴レ現今ニ於テハ斯ル憂虞モ殆ント無クナリタリ是ヲ以テ本員ハ其ノ點ニ付テハ心配ナキモノト信ス故ニ少年法案、矯正院法案、感化法中改正法律案ハ孰レモ原案通りニ可決セラレムコトヲ望ム

○委員男爵若王子文健 本員ハ富谷委員ノ意見ニ賛成ス然レトモ少年法ニ刑事處分ヲ規定シタルハ本員ノ遺憾トスル所ナリ故ニ將來ニ於テ刑事處分ニ關スル規定ヲ特別規定トセラレタシ又保護處分ノ場合ハ裁判官ノ手ヲ經スシテ其ノ目的ヲ達スル設備ヲ講セラレムコトヲ望ム尙少年カ不良ノ風習ニ感染セサル以前ニ於テ充分ニ其ノ豫防ニ留意セラレムコトヲ内務、文部ノ當局ニ期待スル次第ニシテ此ノ點ニ付テハ兩省御相談ノ上充分ナル好成績ヲ舉ケラレムコトヲ切望ス

○委員男爵千秋季隆 本員ハ若王子男爵ノ御意見ニ賛成ス然レトモ少年ノ取扱ヲ司法官ニ託スルコトハ或ハ社會上不利益ナルコトナキニアラサルヲ以テ必要アル場合ハ致シ方ナケレトモ成ル可ク速カニ刑事處分ト保護處分トヲ分離セラレムコトヲ望ム

○委員江原素六 今日ノ事實ニ徴スルモ前ニ感化院ニ收容セラレタル者カ後ニ感化院ニ入院スル者ヲ誘フテ其ノ不良性ヲ増加スル傾多キヲ以テ其等ノ弊ヲ豫防スルニハ本案ノ規定ヲ適當ナリ

ト信ス故ニ本案ニ賛成ス

○委員勘解由小路資承 本員亦本案ニ賛成ス

○委員荒川義太郎 本員ハ少年法案、矯正院法案、感化法中改正法律案トモ其ノ必要ヲ認めサレカ故ニ反對ノ意見ヲ表明ス

○副委員長田所美治 若王子男爵ノ希望條項ヲ今一回説述セラレムコトヲ望ム

○委員男爵若王子文健 本員ノ希望事項ハ其ノ大要ヲ述フレハ(一)刑事處分ノ規定ト保護處分ノ規定トヲ分離セラルルコト(二)保護處分ノ場合ハ裁判所ノ手ヲ經サル様他ノ設備ヲ講セラレタキコト(三)不良少年保護ノ設備ハ充分ナラシムルコト(四)審判員ハ判事ヲシテ審判セラレタル感ノナキ様ニ致サレタキコト(五)其ノ保護ノ點ニ付當局ニ於テ充分ニ御打合アリテ遺憾ナキヲ期セラレタキコト

○委員湯淺倉平 本員ハ大體ニ於テ若王子男爵江原委員ノ御意見ニ賛成ス

○副委員長田所美治 委員ノ意見モ大體盡キタリト認め政府提案ノ三案ヲ連ネテ之ヲ表決ニ付ス

○副委員長田所美治 散會ヲ命ス

散會 午後二時五十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

少年法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十日

右特別委員副委員長

田 所 美 治

委員長

田 所 美 治

矯正院法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十日

右特別委員副委員長

田 所 美 治

貴族院議長公爵徳川家達殿

感化法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十日

右特別委員副委員長

田所 美治

大正十一年三月二十日

委員長 侯爵 花山院親家印

副委員長 田所 美治印

大正十一年三月二十日

貴族院議長公爵德川家達殿

貴族院議員公爵德川家達殿
大正十一年三月二十日

大正十一年三月二十日

過激社會運動取締法案特別委員會

委員選舉

○大正十一年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ過激社會運動取締法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如

シ 出頭開會大正十一年二月二十一日

公爵 二條 厚基

子爵 伊東 祐弘

大久保利武

大島 健一

河村 善益

岡田 良平

男爵 中川 良長

伊澤 多喜男

竹越 與三郎

○大正 委員長及副委員長選舉

○大正十一年二月二十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 公爵 二條 厚基

副委員長 大久保利武

會議

第一回 大正十一年二月二十五日

出席委員

委員長 公爵 二條 厚基 副委員長 大久保利武

委員 子爵 伊東 祐弘 同 河村 善益

同 岡田 良平 同 男爵 中川 良長

同 竹越 與三郎 同 二條 厚基

出席國務大臣

○大正十一年二月二十五日議員、評議員、司法大臣、伯爵、木、遠、吉、成

出席政府委員

內務省警保局長 湯地 幸平

農林省農林局長 湯地 幸平

司法省司法次官 山内 確三郎

同 田 貞 平 司法省刑事局長 林 賴三郎

委員 子爵 伊東 祐弘 司法事務官 宮城 長五郎

開會 午後一時十九分 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

（參照）大正十一年三月一日

過激社會運動取締法案

○委員會公過激社會運動取締法案

第一條 無政府主義、共產主義其ノ他ニ關シ朝憲ヲ紊亂スル事項ヲ宣傳シ又ハ宣傳セムトシタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ事項ヲ實行スルコトヲ勸誘シタル者又ハ其ノ勸誘ニ應ジタル者罰前項ニ同シタル

第二條 前條第一項ノ事項ヲ實行又ハ宣傳スル目的ヲ以テ結社、集會又ハ多衆運動ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 社會ノ根本組織ヲ暴動、暴行、脅迫其ノ他ノ不法手段ニ依リテ變革スル事項ヲ宣傳シ

又ハ宣傳セムトシタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第四條 前三條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品ヲ供與シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ便宜ヲ與ヘタル者又ハ情ヲ知テ之ヲ受ケタル者ハ各本條ニ定ムル所ニ從テ處斷ス
 第五條 前四條ノ罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス
 第六條 本法ハ本法施行區域外ニ於テ第一條乃至第四條ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス
 (附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之
 ○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

散會 午後一時三十四分

第二回 大正十一年三月一日

出席委員

委員長 公爵 二條 厚基	副委員長 大久保利武
委員 子爵 伊東 祐弘	河村 善益
岡田 良平	中川 謙良
伊澤 多喜男	竹越 與三郎

出席政府委員

內務省警保局長 湯地 幸平
內務省參事官 松田 高源 治
司法次官 山內 確三郎
司法省刑事局長 林 田 賴三郎
司法事務官 宮城 長五郎

開會 午前十時四十五分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時二十一分

開會 午後二時五分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

散會 午後三時四十分

第三回 大正十一年三月四日

出席委員

○委員長 公爵 二條 厚基 副委員長 大久保利武

委員 子爵 伊東 祐弘 同 大島 健一

同 河村 善益 同 岡田 良平

○委員 同 男爵 中川 良長 同 伊澤多喜男

○委員 同 竹越 與三郎

出席政府委員

內務省警保局長 湯地 幸平

內務省參事官 松田 源治

司法省刑事局長 林 賴三郎

司法省參事官 秋山 高三郎

司法省參事官 清水 行恕

司法事務官 宮城 長五郎

開會 午前十一時三十三分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

散會 午後零時十七分

第四回 大正十一年三月六日

出席委員

委員長 公爵 二條 厚基 副委員長 大久保利武

委員 子爵 伊東 祐弘 同 大島 健一

同 河村 善益 同 中川 良長

○委員 同 男爵 竹越 與三郎

出席政府委員

內務省警保局長 湯地 幸平

司法省參事官 秋山 高三郎

司法事務官 宮城 長五郎

開會 午後一時二十八分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十分

第五回 大正十一年三月十三日

出席委員

委員長 公爵 二條 厚基

副委員長

大久保利武

委員 子爵 伊東 祐弘

同 委員

大島 健一

同 委員 河村 善益

同 委員

岡田 良平

同 委員 大五郎 男爵 中川 良長

同 委員

伊澤多喜男

同 委員 竹越 與三郎

同 委員

湯地 幸平

出席政府委員

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

開會 午前十一時三十三分

內務次官

小橋 一太

內務省警保局長

湯地 幸平

內務省參事官

松田 源治

內務省參事官

河原田 稼吉

司法次官

山内 確三郎

司法省刑事局長

林 賴三郎

司法省參事官

秋山 高三郎

司法省參事官

清水 行恕

司法事務官

宮城 長五郎

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

開會 午後一時二十分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

開會 午後零時十分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後四時三十分

第六回 大正十一年三月十四日

○委員 出席委員

委員長 公爵 厚基 副委員長 大久保利武

○委員 委員 子爵 伊東 祐弘 同 大島 健一

○委員 同 河村 善益 同 岡田 良平

○委員 同 中川 良長 同 伊澤多喜男

同 竹越與三郎 同 同

出席國務大臣

內務大臣 床次竹二郎

出席政府委員

內務次官 小橋 兼三 太

內務省警保局長 湯地 田幸平

司法次官 山内 確三郎

司法省刑事局長 林 頼三郎

司法省參事官 秋山 高三郎

司法省參事官 岩村 通世

司法省參事官 清水 行恕

司法事務官 宮城 長五郎

○大正十開會 午前十時五十一分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時五分

開會 午後一時二十一分

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ス

散會 午後四時五十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

內務省參事官 松田源治
 司法次官 山内確三郎
 司法省刑事局長 林大賴三郎
 司法事務官 宮城長五郎

開會 午後零時二十三分 第三號

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ズ

散會 午後一時三十八分

第八回 大正十一年三月二十三日

出席委員 公爵 二條厚基 委員 子爵 伊東祐弘
 同 大正十子爵 三井隆正 同 大島健一
 同 渡邊廉吉 同 内田正敏
 同 南岩倉具威 同 木場貞長

出席國務大臣 內務大臣 川上野親晴

出席政府委員 伊澤多喜男 竹越與三郎

內務省警保局長 湯地幸平
 內務省參事官 松田源治
 司法次官 山内確三郎
 司法省刑事局長 林大賴三郎
 司法省參事官 岩村通世
 司法事務官 宮城長五郎

大正十一年三月二十三日

○委員長公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス
 ○委員長公爵二條厚基 散會ヲ命ズ

○委員 休憩 午前十時二十九分

○委員 開會 午前十一時四十分

○委員長 公爵二條厚基 開會ヲ宣告ス

○委員長 公爵二條厚基 散會ヲ命ス

散會 午後零時五十三分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

過激社會運動取締法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

公爵 二條 厚基

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第三十一號五百十一頁參照

委員長 公爵 二條 厚基 印

副委員長 大久保 利武 印

借地借家調停法案特別委員會

委員選舉

○大正十一年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ借地借家調停法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 寺島 誠一郎

松 室 致

男爵 船越 光之丞

男爵 佐竹 義 準

加 太 邦 憲

勝 田 主 計

江 木 翼

勝 田 銀 次 郎

成 清 信 愛

○大正十一年三月六日勝田銀次郎委員ヲ辭任ス同日議長ハ其ノ補闕トシテ根津啓吉ヲ本委員ニ選定ス

委員及副委員長選舉

○大正十一年二月二十八日委員長及副委員長ヲ互選スシノ結果左ノ如シ

委員長

松室致

副委員長

加太邦憲

會議

第一回 大正十一年三月二日

出席委員

委員長

松室致

副委員長

加太邦憲

委員

男爵 佐竹義準

同

江越木次翼

同

成清信愛

出席政府委員

○大正十一年三月二日出席政府委員

委員

司法省民事局長

山内確三郎

司法省參事官

池田寅二郎

三宅正太郎

開會 午前十時三十三分

○委員長松室致開會ヲ宣告ス

(參照)

借地借家調停法案

借地借家調停法

第一條 土地又ハ建物ノ貸借、地代、家賃其ノ他借地借家關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 當事者義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタルト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條 爭議ノ目的タル土地又ハ建物カ數個ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方

裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第六條 裁判所ハ期日ヲ定メ調停申立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第七條 當事者及利害關係人ハ自身^{○又ハ代理人}出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得
裁判所ハ當事者及利害關係人自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第八條 調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第九條 費用ヲ要スル行為ニ付テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十條 申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十一條 調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第十四條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ得

當事者雙方ノ申立アルトキハ裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十五條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第十六條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ特別ノ知識經驗アル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第十七條 調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給

第十九條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第二十條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第二十一條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トスルハ調停委員ノ同意ニ依ル

第二十二條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條、第七條第一項但書第二項、第八條但書及第十三條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第二十三條 調停委員會ハ當事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十四條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ爭議ノ目的タル事項及手續ノ費用ニ付適當ト認ムル調停條項ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ當事者ニ送付スルコトヲ要ス

當事者カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シタルモノト看做ス

第二十五條 調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

當事者カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二十六條 調停成リタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ當事者カ調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限り裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條 調停ノ申立ヲ爲スニハ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス

第三十條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記録ノ閱覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條 第十八條ノ旅費、日當及止宿料並前二條ノ手数料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長松室致 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十二分

第二回 大正十一年三月十一日

出席委員

委員長 松室致

副委員長 加藤太一 邦憲

委員 男爵 佐竹義準 同委員 江木洪翼

同委員 根津啓吉 同 成清信愛

第四出席政府委員 三月十六日

司法次官 山内確三郎

司法省民事局長 池田寅二郎

司法省參事官 三宅正太郎

開會 午前十時四十二分

○委員長松室致 開會ヲ宣告ス

○委員長松室致 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

第三回 大正十一年三月十三日

出席委員

委員長 松室致 副委員長 加太邦憲

委員 男爵 船越光之丞 同 男爵 佐竹義準

同 江 木 翼 成 清 信 愛

出席國務大臣 內務大臣 床次竹二郎

出席政府委員 司法次官 山内確三郎

司法省民事局長 池田寅二郎

司法省參事官 三宅正太郎

開會 午前十時三十分

○委員長松室致 開會ヲ宣告ス

○委員長松室致 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十二分

第四回 大正十一年三月十六日

出席委員 松 室 致 副委員長 加 太 邦 憲

委員長 松 室 致

內閣總理大臣兼 子爵 高 橋 是 清

司法次官 山内確三郎

司法省參事官 三宅正太郎

開會 午後一時三十七分

○委員長松室致 開會ヲ宣告ス

○委員長松室致 散會ヲ命ス

散會 午後二時八分

第五回 大正十一年三月二十二日

出席委員 松 室 致 委員 男爵 佐 竹 義 準

委員長 松 室 致

出席政府委員 司法次官 山内確三郎

司法省參事官 三宅正太郎

開會 午後一時三十七分

○委員長松室致 開會ヲ宣告ス

○委員長松室致 散會ヲ命ス

散會 午後二時八分

第五回 大正十一年三月二十二日

出席委員 松 室 致 委員 男爵 佐 竹 義 準

委員長 松 室 致

出席政府委員 司法次官 山内確三郎

司法省參事官 三宅正太郎

開會 午後一時三十七分

○委員長松室致 開會ヲ宣告ス

○委員長松室致 散會ヲ命ス

散會 午後二時八分

同 江 木 翼 同 根 津 啓 吉
同 成 清 信 愛

出席國務大臣三月二十二日

內閣總理大臣兼子爵 高 橋 是 清

出席政府委員

司法次官 山 内 確 三 郎

開會 午前九時三十分

司法省民事局長 池 田 寅 二 郎

委員長松室致 開會ヲ宣告ス

司法省參事官 三 宅 正 太 郎

委員長松室致 散會ヲ命ス

散會 午前九時三十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

借地借家調停法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十二日

大正十一年三月二十五日議長ノ指名ヲ以テ機會法案特別委 右特別委員長

松 室 本 行 致

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第二十九號四百七十七頁參照

委員長 松 室 致 印

副委員長 加 太 邦 憲 印

委員及副委員長選舉

大正十一年三月二十八日委員及副委員長ノ選舉

○大正十一年二月二十八日委員及出席委員名單
委員長 侯爵 佐佐木行忠
副委員長 山田 煥
委員 山田 煥
委員 山田 煥

會議

第一回 大正十一年三月十一日

出席委員

委員長 侯爵 佐佐木行忠 副委員長 玉利 喜造

委員 服部 一三 同 子爵 板倉 禮勝 憲

同 仲小路 廉 同 男爵 島津 健之助

同 山田 敏 同 男爵 山本 木達 雄

出席國務大臣

農商務大臣 男爵 山本 木達 雄

○大正十一年三月十一日委員及出席委員名單

委員名單

農商務次官 田中 隆三

農商務書記官 石黑 忠篤

開會 午後一時三十八分

○委員長侯爵佐佐木行忠 開會ヲ宣告ス

(參照)

農會法案

農會法

第一條 農會ハ農業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 農會ハ法人トス

第三條 農會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 農業ノ指導獎勵ニ關スル施設

二 農業ニ從事スル者ノ福利増進ニ關スル施設

三 農業ニ關スル研究及調査

四 農業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁

五 其ノ他農業ノ改良發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

第四條 農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 農會ハ農業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第六條 行政官廳ハ農會ニ對シ農業ニ關スル報告書ノ提出及農業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條 政府ハ農會ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第八條 農會ハ町村農會、市農會、郡農會、道府縣農會及帝國農會トス

第九條 農會ノ地區ハ町村農會ニ在リテハ町村又ハ町村組合、市農會ニ在リテハ市、郡農會ニ

在リテハ郡又ハ島司ヲ置キタル島嶼、道府縣農會ニ在リテハ道府縣、帝國農會ニ在リテハ内

地ノ區域ニ依ル

特別ノ事由アルトキハ農會ノ地區ハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第一項ノ區域ニ増減アリタルトキハ其ノ區域ヲ地區トスル農會ノ地區モ亦之ニ應シテ増減ア

リタルモノトス

町村カ市ト爲リタルトキハ其ノ町村ノ區域ヲ地區トスル町村農會ハ市農會ト爲リタルモノト

ス

第十條 農會ノ名稱ニハ町若ハ村農會、市農會、郡農會、道、府若ハ縣農會又ハ帝國農會ナル

文字ヲ用キルヘシ但シ農會ノ地區カ町、村、市、郡、道、府又ハ縣ノ區域ニ依ラサルトキハ

其ノ名稱中ニ此等ノ區域ヲ示スヘキ文字ヲ用キサルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル農會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用キルコトヲ得ス

第十一條 農會ハ町村農會及市農會ニ在リテハ國、公共團體及命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除ク

外其ノ地區内ノ耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及其ノ地區内ニ於テ農業ヲ營ム者、郡農

會ニ在リテハ其ノ地區内ノ町村農會、道府縣農會ニ在リテハ其ノ地區内ノ市農會、郡農會及

郡農會ノ會員ニ非サル町村農會、帝國農會ニ在リテハ道府縣農會ヲ以テ其ノ會員トス

第十二條 農會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上

ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

町村農會及市農會ニ在リテハ前項ノ同意ヲ爲シタル者ノ所有シ又ハ占有スル其ノ地區内ノ耕

地、牧場及原野ノ面積ハ私用ニ供スル其ノ地區内ノ耕地、牧場及原野ノ面積ノ二分ノ一以上

ナルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ此ノ條件ニ依ラサルコトヲ得

第十三條 郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ農會ノ會員タルヘキ

農會ハ其ノ總會ニ於テ創立委員各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ但シ道府縣農會ヲ設立スル場合ニ於テ郡農會ノ會員ニ非サル町村農會カ選任スル創立委員ノ選出ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 町村農會及市農會ノ創立總會ニ於テハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ其ノ役員並其ノ組織スヘキ農會ノ議員及豫備議員ト爲ルヘキ者ヲ、其ノ他ノ農會ノ創立總會ニ於テハ其ノ創立委員中ヨリ其ノ役員並其ノ組織スヘキ農會ノ議員及豫備議員ト爲ルヘキ者ヲ選任スヘシ但シ第二十七條第二項但書及第三項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 農會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス
第十六條 農會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス但シ行政官廳カ特別ノ事由ニ依リ加入ノ必要ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 農會ニ總會ヲ置ク
總會ハ町村農會及市農會ニ在リテハ會長副會長及會員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ會長副會長議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ノ議員ハ其ノ農會ノ會員タル農會ニ於テ各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ但シ郡農會ノ會員ニ非サル町村農會カ選任スル議員ノ選出ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ノ會員タル農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫備議員各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ
豫備議員ハ議員事故アルトキハ之ヲ代理シ議員闕ケタルトキハ議員ト爲ル

前條第三項但書ノ規定ハ豫備議員ニ付之ヲ準用ス
第十九條 行政官廳ハ農業ニ關スル學識經驗アル者ヲ郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ノ特別議員ニ任命スルコトヲ得
特別議員ノ員數ハ議員定數ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
第二十條 左ニ掲クル事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

- 一 收支豫算
- 二 經費ノ分賦收入方法

三 事業報告及收支決算

四 借入金

五 基本財産ノ造成、管理及處分

六 會則ノ變更

七 役員、議員及豫備議員ノ選任及解任

八 第十二條第一項、第二十四條第二項及第三十五條ノ同意

前項第一號、第二號、第四號及第六號ニ掲クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サ

レハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條 總會ハ會長之ヲ招集ス

總會ヲ組織スル者ハ其ノ總數ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由

ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以内ニ總會ヲ招集セサルト

キハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ總會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ行政官廳ハ會員又ハ議員若ハ特別議

員ヲ指定シテ總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第二十二條 總會ノ議長ハ會長、會長事故アルトキハ副會長ヲ以テ之ニ充ツ會長及副會長共ニ

事故アルトキ又ハ前條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

第二十三條 總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決

ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 會則ノ變更ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ

以テ之ヲ議決ス

會則ノ變更カ地區ノ増減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除

セラルヘキ區域内ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十五條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ會則ノ定ムル所ニ依リ書面

ヲ以テ其ノ總會ヲ組織スル者ノ意見ヲ徵シ總會ノ議決ニ代フルコトヲ得但シ町村農會及市農

會ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ總代會ヲ置キ總會ニ代フルコトヲ得

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選舉シタル總代ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ニ關スル規定ハ總代会ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 農會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人

副會長 一人

評議員 數人

役員ハ町村農會及市農會ニ在リテハ會員中ヨリ、其ノ他ノ農會ニ在リテハ議員及特別議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス
前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條 會長ハ農會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ並會務執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十九條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムル

モノハ會長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得

町村農會及市農會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ

市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市

町村ニ交付スヘシ

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ其

ノ時効ニ付テハ市町村税ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟

ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手数料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 行政官廳ハ農會ニ對シ會務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、會務執行又ハ財産ノ狀況ヲ

検査シ、會則收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル農會ニ對シ農業ニ關スル報告書ノ提出及農業ニ關スル事項ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條 行政官廳ハ農會ノ決議又ハ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ特別議員ヲ解任シ、議員豫備議員若ハ總代ノ改選ヲ命シ、農會ノ事業ヲ停止シ又ハ農會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 農會解散又ハ合併ヲ爲サムトスルトキハ其ノ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得、道府縣農會ニ在リテハ尙其ノ會員タル郡農會及市農會ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且合併ノ場合ニ於テハ會則ヲ議定シ事由ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

農會分割ヲ爲サムトスルトキハ前項ノ規定ニ準スル同意ノ外分割ノ各農會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得農會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ且會則ヲ議定シ事由ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條第二項、第十三條乃至第十五條及第十七條第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用

ス

第三十六條 合併後存續スル農會又ハ合併ニ因リテ設立シタル農會ハ合併ニ因リテ消滅シタル農會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル農會ハ前條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ農會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十七條 農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第三十八條 農會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ規定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキハ亦同シ

第三十九條 清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス清算方法及財産處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條 行政官廳必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四十一條 本法ニ於テ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモ
ノトシ郡トアルハ北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長管轄區域トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十二年法律第百三號農會法ハ之ヲ廢止ス

明治三十二年法律第百三號農會法ニ依リ設立シ本法施行ノ際現ニ存スル農會ハ之ヲ本法ニ依リ

設立シタルモノト看做ス

本法施行ノ際現ニ前項ノ農會ノ役員、議員、豫備議員又ハ特別議員ノ職ニ在ル者ハ其ノ任期中

仍其ノ職ニ在ルモノトス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵佐佐木行忠 散會ヲ命ス

散會 午後四時一分

第二回 大正十一年三月十四日

出席委員

委員長 侯爵 佐佐木行忠 副委員長 玉利 喜造

委員 伯爵 吉六井 幸藏 同 服部 一三

委員 同 子爵 板倉 勝憲 同 仲小路 廉

委員 同 男爵 坪井 九八郎 同 男爵 島津健之助

同會 同 山本 田 斂

出席國務大臣

農商務大臣 男爵 山本 達雄

出席政府委員

農商務次官 田中 隆三

農商務書記官 石黒 忠篤

開會 午後一時十六分

○委員長侯爵佐佐木行忠 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵佐佐木行忠 散會ヲ命ス

散會 午後三時五十三分

第三回 大正十一年三月十七日

○出席委員

○委員長 侯爵 佐佐木行忠

副委員長

玉利 喜造

委員 伯爵 吉井 幸藏

同 子爵

板倉 勝憲

同 仲小路 廉

同 男爵

坪井 九八郎

同 男爵 島津健之助

同 男爵

山田 斂

出席政府委員

農商務次官

田中 隆三

農商務書記官

石黒 忠篤

開會 午前十時十九分

○委員長侯爵佐佐木行忠

開會ヲ宣告ス

同

○委員長侯爵佐佐木行忠

散會ヲ命ス

同

散會 午前十時三十六分

(附記)員同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ委員

正 喜造

農會法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月十七日

右特別委員長

侯爵 佐佐木行忠

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 侯爵 佐佐木行忠 印

副委員長 玉利 喜造 印

○大正十一年三月七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 侯爵 鍋島直映
副委員長 男爵 坂本俊篤

會議

第一回 大正十一年三月七日

出席委員

委員長	侯爵	鍋島直映	副委員長	男爵	坂本俊篤
委員	男爵	小澤武雄	同	子爵	藪篤麿
同		水上長次郎	同		渡邊廉吉
同		鍋島桂次郎			

出席政府委員

拓殖局長	官	川村竹治
外務省條約局長		山川端夫

開會 午前十時二十八分

○委員長侯爵鍋島直映 開會ヲ宣告ス

(參照)

司法事務共助法中改正法律案

司法事務共助法中左ノ通改正ス

第一條中「關東州」ヲ「關東州、南洋群島」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

○委員長侯爵鍋島直映 散會ヲ命ス

散會 午前十時五十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

司法事務共助法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月七日

○大正十一年三月三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

右特別委員長 侯爵 鍋島直映

同 貴族院議長公爵德川家達殿

副委員長 男爵 坂本俊篤印

委員長 侯爵 鍋島直映印

○委員長及副委員長ノ選出ニ付テハ

委員長ノ選出ニ付テハ

副委員長ノ選出ニ付テハ

委員及副委員ノ選出ニ付テハ

委員及副委員ノ選出ニ付テハ

委員及副委員ノ選出ニ付テハ

委員及副委員ノ選出ニ付テハ

委員及副委員ノ選出ニ付テハ

○委員長及副委員長ノ選出ニ付テハ

委員及副委員ノ選出ニ付テハ

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十一年二月二十八日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案特別委員ヲ

選定スルコト左ノ如シ

委員長 侯爵 德川 圀順

副委員長 伯爵 兒玉 秀雄

委員 子爵 大 給 樂 近 孝

委員 子爵 大 浦 兼 一

委員 北 里 柴 三 郎

委員 男爵 安 場 末 喜

委員 男爵 福 原 俊 丸

委員 三 宅 秀

委員 橋 本 辰 二 郎

○大正十一年三月二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正十一年三月二日委員會議事録委員及委員長伯爵 兒玉 秀雄

副委員長 男爵 安場 末喜

會議

第一回 大正十一年三月二日

出席委員

委員長 伯爵 兒玉 秀雄 副委員長 男爵 安場 末喜

委員 侯爵 徳川 圀順 同 子爵 大給 近孝

同 子爵 大浦 兼一 同 子爵 北里 柴三郎

同 男爵 福原 俊丸 同 男爵 三宅 秀

同 橋本 辰二郎 同 男爵 三宅 秀

懇談出席政府委員

○大正十一年三月二十八日委員會議事録委員及委員長伯爵 兒玉 秀雄

開會 午前十時二十四分

○委員長伯爵兒玉秀雄開會ヲ宣告ス

(參照)

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「百十四萬圓」ヲ「百二十六萬圓」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニナル詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二日

右特別委員長

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長公爵徳川家達殿

